

若い世代対象

男女共同参画とデートDVに関する意識調査

こうち男女共同参画センター「ソーレ」

## 目次

### I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 回答者の属性	1
4 調査について	1

### II 調査結果の概要

1. 男女共同参画について	
(1) 各分野における男女の地位の平等意識	2
(2) 結婚、家庭、離婚についての考え方	5
(3) 家庭における男女の役割分担の理想	8
(4) 女性の理想の働き方	9
(5) 男女が共に働きやすい環境のために必要な条件	10
(6) クロス集計結果	12
2. デートDV(恋人間の暴力)について	
(1) 暴力の感じ方	13
(2) 暴力についての考え方	14
(3) 交際経験	15
(4) デートDVの実態	16
(5) 加害について	18
(6) 被害について	19
(7) デートDVを見聞きした体験	25
(8) 学習機会	27
(9) 相談機関の認知度	27
(10) クロス集計結果	28
(11) 自由記述(デートDVについて)	34

III まとめ	35
---------	----

IV アンケート調査票	36
-------------	----

# 若い世代対象 男女共同参画とデートDVに関する意識調査

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

10代から20代の若いカップルの間で起きているデートDVが問題になっている。将来的に配偶者等間に起こる暴力(ドメスティック・バイオレンス、DV)につながっていく可能性も高く、デートDV被害の把握や防止対策が急がれているが、学生等の若い世代におけるDVに関する意識やデートDV被害の実態については、これまで高知県内では十分に調査されたことがなかった。

今回、男女共同参画に関する意識、デートDVに関する意識や被害の実態を調査し、「男女共同参画に関する県民意識調査」(高知県:平成21年度)と対比することで、学生等の若い世代の特徴を把握し、関係機関への予防・啓発に関する情報提供を目的とする。

### 2. 調査の設計

#### (1) 調査対象

高知県内の大学・高等専門学校・専門学校に在籍し、同意を得られた学生等

#### (2) 調査期間 平成22年10月1日から11月30日

#### (3) 調査票配布と回収状況

配布数3,044枚 有効回答数1,312枚(回収率43.1%)

#### (4) 調査項目

##### ① 男女共同参画について

各分野における男女の地位の平等意識／結婚、家庭、離婚についての考え方／家庭における男女の役割分担の理想／女性の理想の働き方／男女が共に働きやすい環境のための必要な条件

##### ② デートDV(恋人間の暴力)について

暴力の感じ方／暴力についての考え方／交際経験／デートDVの実態／相談の実態／デートDVを見聞きした経験／相談機関の認知度／自由記述

### 3. 回答者の属性

高知県内の大学・高等専門学校・専門学校に在籍する学生等

男性684人、女性628人

単位:人

	男性	女性		男性	女性		男性	女性
18歳	90	70	22歳	40	45	30歳以上	20	27
19歳	200	190	23歳	8	7	年齢不明	12	7
20歳	192	184	24歳	10	7	合計	684	628
21歳	90	78	25歳以上	22	13			

注)図表中の「N=」で示した数値は有効回答数を表す。

### 4. 調査について

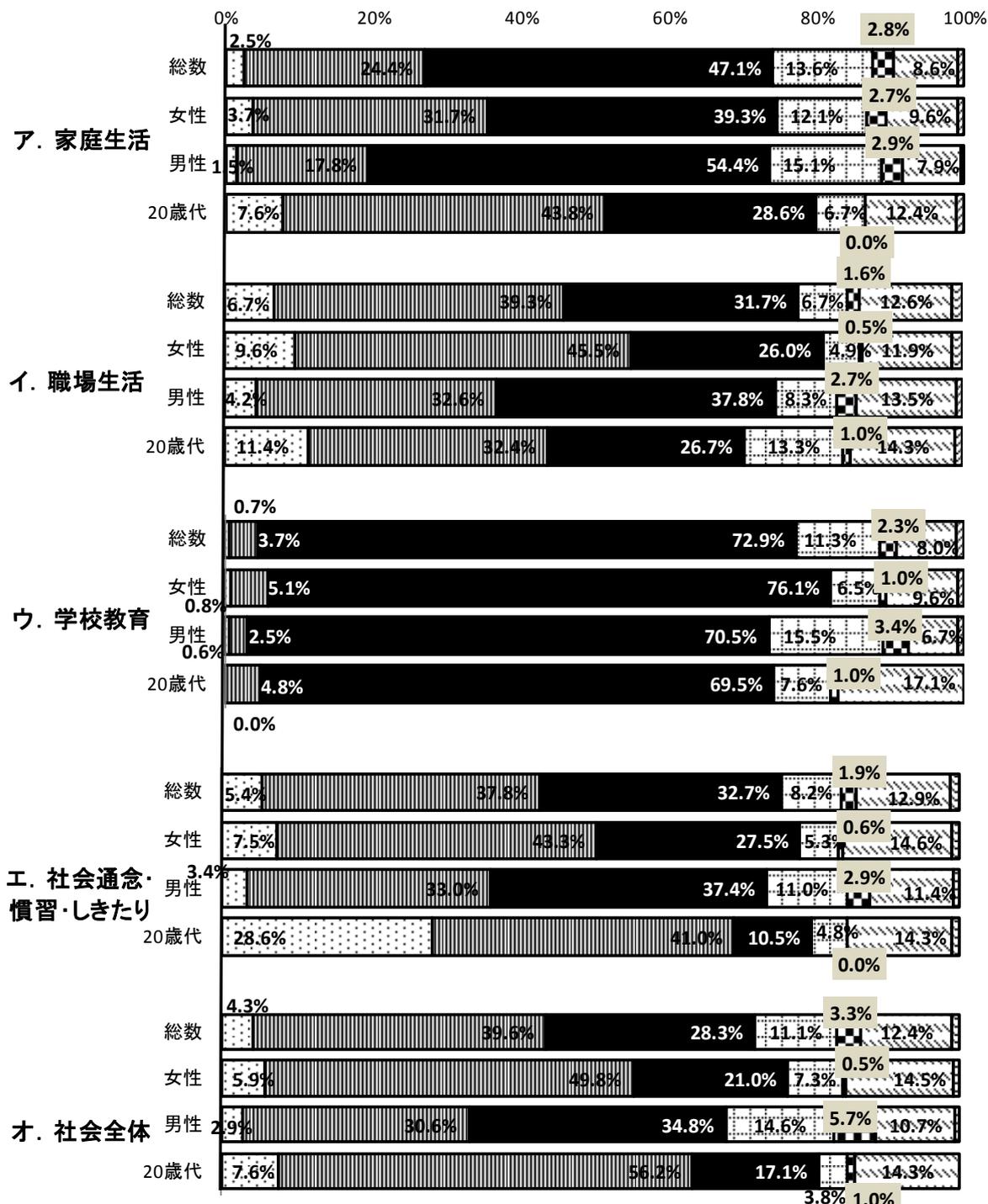
問1から問5は、男女共同参画に関する意識調査をし、その結果を男女間で比較するとともに、平成21年度男女共同参画に関する県民意識調査(実施:高知県)の20歳代(男女/N=105)と比較した。

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1. 男女共同参画について

#### (1) 各分野における男女の地位の平等意識

【問1】次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近い番号に1つだけ○印をつけてください。



□1.非常に男性が優遇 □2.どちらかといえば男性が優遇 ■3.平等 □4.どちらかといえば女性が優遇 □5.非常に女性が優遇 □6.わからない □7.無回答

総数 N=1312(女性N=628/男性N=684) 20歳代 N=105

## ア. 家庭生活

### 男女の比較

『男性優遇』(「1. 男性が非常に優遇されている」+「2. どちらかといえば男性が優遇されている」以下『男性優遇』)と答えた人の割合は、女性 35.4%(3.7%+31.7%)が男性 19.3%(1.5%+17.8%)より16.1ポイント高く、「3. 平等」では逆に男性 54.4%が女性 39.3%より15.1ポイント高くなっており、男女間では平等意識に隔たりが見られる。

### 調査における「総数」(以下『総数』)と男女共同参画に関する県民意識調査(実施:高知県)の「20歳代」(以下『20歳代』)の比較

『総数』で『男性優遇』と答えた人の割合は、26.9%(2.5%+24.4%)、平等と答えた人の割合は47.1%で、『女性優遇』(「5. 女性が非常に優遇されている」+「4. どちらかといえば女性が優遇されている」、以下『女性優遇』)16.4%(13.6%+2.8%)より30.7ポイント高くなっている。

『20歳代』で『男性優遇』と答えた人の割合は51.4%(7.6%+43.8%)で、平等と答えた人の割合は28.6%、『女性優遇』6.7%(6.7%+0%)より高くなっている。

『総数』は、「3. 平等」47.1%、「2. どちらかといえば男性が優遇されている」24.4%、「4. どちらかといえば女性が優遇されている」16.4%の順位であるが、『20歳代』では、「2. どちらかといえば男性が優遇されている」43.8%、「3. 平等」28.6%、「1. 非常に男性が優遇」7.6%と順位に違いが見られる。

## イ. 職場生活

### 男女の比較

『男性優遇』と答えた人の割合は、女性 55.1%(9.6%+45.5%)が男性 36.8%(4.2%+32.6%)より18.3ポイント高く、「3. 平等」では男性 37.8%が女性 26.0%より11.8ポイント高く、男女間では平等意識に隔たりが見られる。

### 『総数』と『20歳代』の比較

『男性優遇』と答えた人の割合は、『総数』46.0%(6.7%+39.3%)『20歳代』43.8%(11.4%+32.4%)、「3. 平等」と答えた人の割合は、『総数』31.7%『20歳代』26.7%で、ほぼ同じ傾向を示している。

「4. どちらかといえば女性が優遇されている」では、『総数』6.7%『20歳代』13.3%と隔りがある。

## ウ. 学校教育

### 男女の比較

男女とも「3. 平等」の数値が最も高い。(女性 76.1%、男性 70.5%)

『男性優遇』と答えた人の割合は、女性 5.9%(0.8%+5.1%)が男性 3.1%(0.6%+2.5%)より2.8ポイント高く、『女性優遇』と答えた人の割合は、男性 18.9%(15.5%+3.4%)が女性 7.5%(1.0%+6.5%)より11.4ポイント高くなっている。

### 『総数』と『20歳代』の比較

「3. 平等」と答えた人の割合は、『総数』72.9%『20歳代』69.5%と高い。『女性優遇』と答えた人の割合は、『総数』13.6%(2.3%+11.3%)が『20歳代』8.6%(1.0%+7.6%)より 5.0 ポイント高くなっている。

## エ. 社会通念・慣習・しきたり

### 男女の比較

『男性優遇』と答えた人の割合は、女性 50.8%(7.5%+43.3%) 男性 36.4%(3.4%+33.0%)、『女性優遇』と答えた人の割合は、女性 5.9%(0.6%+5.3%) 男性 13.9%(2.9%+11.0%)と男女で隔たりがある。

### 『総数』と『20歳代』の比較

『男性優遇』と答えた人の割合は、『20歳代』69.6%(28.6%+41.0%)が『総数』43.2%(5.4%+37.8%)より 26.4 ポイント高く、「3. 平等」では『総数』32.7%が『20歳代』10.5%より 22.2 ポイント高く、平等意識に大きな隔たりが見られる。

『20歳代』は『男性優遇』が高く、その中でも「1. 非常に男性が優遇」28.6%は、5つの分野の中でも突出して高くなっている。

## オ. 社会全体

### 男女の比較

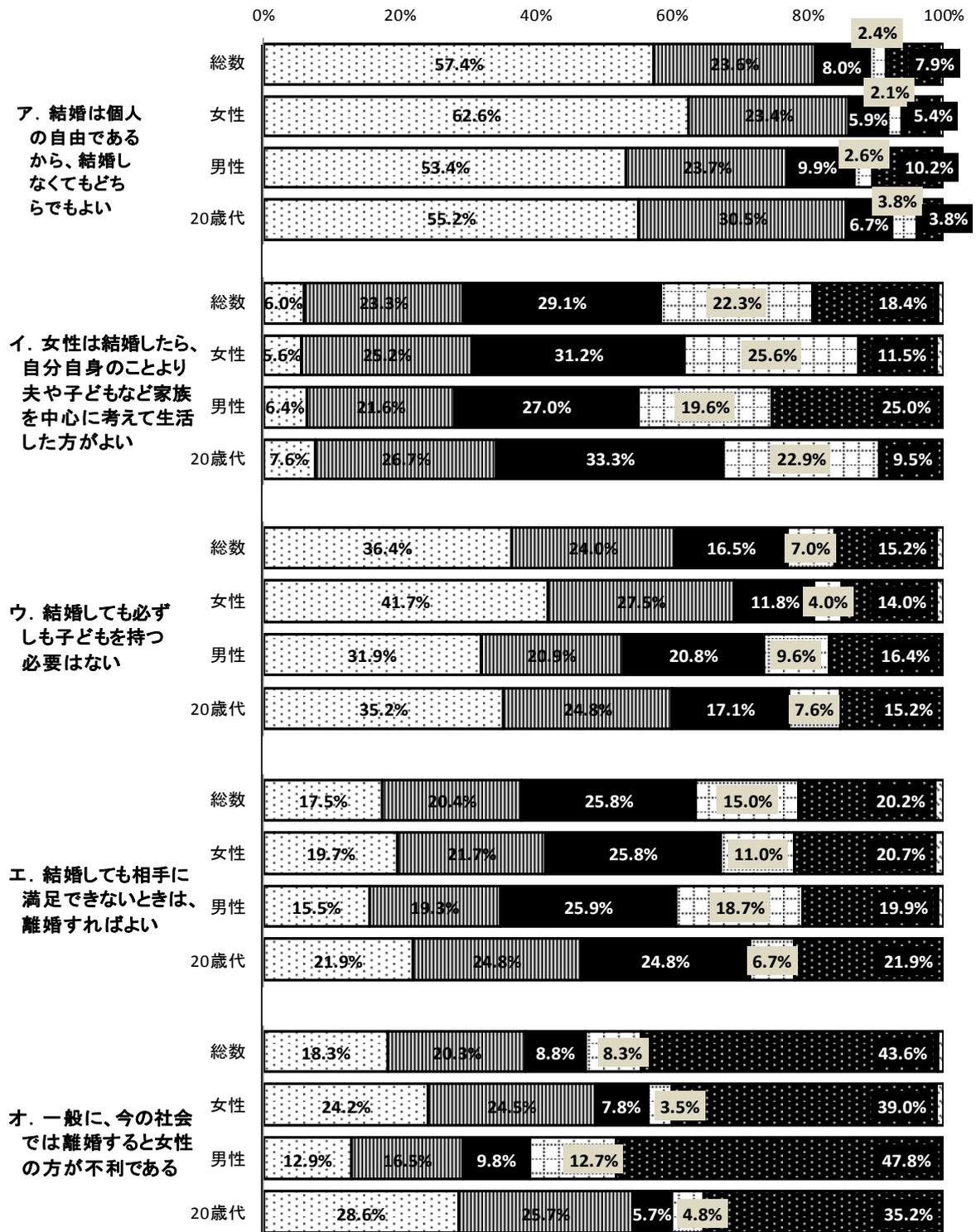
『男性優遇』と答えた人の割合は、女性 55.7%(5.9%+49.8%)が男性 33.5%(2.9%+30.6%)より 22.2 ポイント高く、『女性優遇』と答えた人の割合は、男性 20.3%(5.7%+14.6%)が女性 7.8%(0.5%+7.3%)より 12.5 ポイント高くなっている。

### 『総数』と『20歳代』の比較

『男性優遇』と答えた人の割合は、『20歳代』63.8%(7.6%+56.2%)が『総数』43.9%(4.3%+39.6%)より 19.9 ポイント高く、『平等』では、『総数』28.3%が『20歳代』17.1%より 11.2 ポイント高く、平等意識に隔たりが見られる。

(2) 結婚、家庭、離婚についての考え方

【問2】結婚、家庭、離婚について、あなたの意見に最も近い番号に1つだけ○印をつけてください。



□1.賛成 □2.どちらといえば賛成 ■3.どちらかといえば反対 □4.反対 ■5.わからない □無回答

総数 N=1312(女性N=628/男性N=684) 20歳代N=105

## ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい

### 男女の比較

「ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」に対して、『賛成』（「1. 賛成」+「2. どちらかといえば賛成」、以下『賛成』）、『反対』（「4. 反対」+「3. どちらかといえば反対」、以下『反対』）と答えた人の割合は、女性は『賛成』86.0%（62.6%+23.4%）、『反対』8.0%（2.1%+5.9%）、男性は『賛成』77.1%（53.4%+23.7%）、『反対』12.5%（2.6%+9.9%）となっており、女性の方が結婚に対して自由な考えを持つ人の割合が高くなっている。

### 『総数』と『20歳代』の比較

『総数』は、『賛成』81.0%（57.4%+23.6%）、『反対』10.4%（2.4%+8.0%）、『20歳代』は、『賛成』85.7%（55.2%+30.5%）、『反対』10.5%（3.8%+6.7%）となっている。

『総数』『20歳代』ともに、『賛成』の割合が高く、結婚する際に個人の意思を尊重する意識が高いことが分かる。

## イ. 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

### 男女の比較

『賛成』と答えた人の割合は、女性 30.8%（5.6%+25.2%）男性 28.0%（6.4%+21.6%）、『反対』と答えた人の割合は、女性 56.8%（31.2%+25.6%）男性 46.6%（27.0%+19.6%）となっており、『反対』と答えた割合は女性が高くなっている。

### 『総数』と『20歳代』の比較

『賛成』と答えた人の割合は、『総数』29.3%（6.0%+23.3%）、『20歳代』34.3%（7.6%+26.7%）、『反対』と答えた人の割合は、『総数』51.4%（22.3%+29.1%）、『20歳代』56.2%（22.9%+33.3%）となっている。

## ウ. 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

### 男女の比較

『賛成』と答えた人の割合は、女性は 69.2%（41.7%+27.5%）男性 52.8%（31.9%+20.9%）、『反対』と答えた人の割合は、女性 15.8%（4.0%+11.8%）男性 30.4%（9.6%+20.8%）となっている。男女ともに、『賛成』と答えた割合が高いが、『反対』は男性が女性の約2倍もあり、性別によって子どもを持つことに対する考えが異なることが分かる。

### 『総数』と『20歳代』の比較

『賛成』と答えた人の割合は、『総数』は 60.4%（36.4%+24.0%）、『20歳代』60.0%（35.2%+24.8%）、『反対』と答えた人の割合は、『総数』23.5%（7.0%+16.5%）、『20歳代』24.7%（7.6%+17.1%）となっており、ほぼ同じ傾向にあることが分かる。

## エ. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

### 男女の比較

『賛成』と答えた人の割合は、女性は 41.4% (19.7% + 21.7%) 男性 34.8% (15.5% + 19.3%)、  
『反対』と答えた人の割合は、女性 36.8% (11.0% + 25.8%) 男性 44.6% (18.7% + 25.9%) となっ  
ている。

### 『総数』と『20歳代』の比較

『賛成』と答えた人の割合は、『総数』37.9% (17.5% + 20.4%) 『20歳代』46.7% (21.9% +  
24.8%)、『反対』と答えた人の割合は、『総数』40.8% (15.0% + 25.8%) 『20歳代』31.5% (6.7% +  
24.8%) となっている。

## オ. 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

### 男女の比較

『賛成』と答えた人の割合は、女性 48.7% (24.2% + 24.5%) 男性 29.4% (12.9% + 16.5%)、『反  
対』と答えた人の割合は、女性 11.3% (3.5% + 7.8%) 男性 22.5% (12.7% + 9.8%) となっている。  
『賛成』の割合は女性が高く、その中でも「1. 賛成」の選択肢を選んだ人が 24.2% を占めるなど、  
女性の方がより不利だと考えている割合が高いことが分かる。

他の質問項目に比べて「わからない」の割合が大変高くなっており、判断しづらい問題であっ  
たと考えられる。

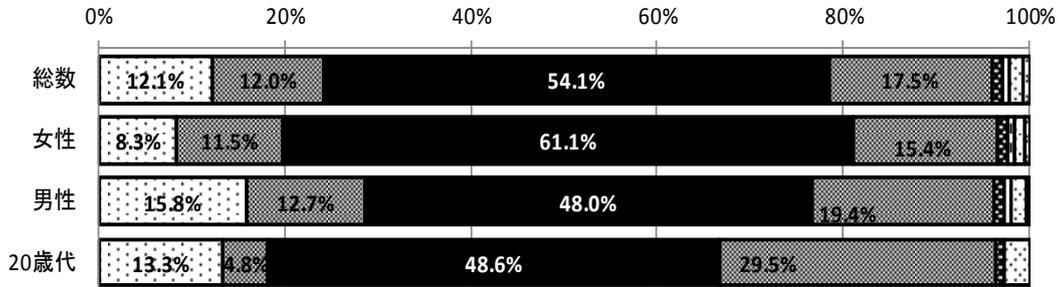
### 『総数』と『20歳代』の比較

『賛成』と答えた人の割合は、『総数』38.6% (18.3% + 20.3%) 『20歳代』54.3% (28.6% +  
25.7%)、『反対』と答えた人の割合は、『総数』17.1% (8.3% + 8.8%) 『20歳代』10.5% (4.8% +  
5.7%) となっており、『20歳代』の方が、より強く「女性の方が不利だ」と感じていることが分かる。

### (3) 家庭における男女の役割分担の理想

【問3】 家庭における男女の役割分担について、あなたの理想に最も近いのはどれですか。

(1つだけ○印)



- 1. 夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する
- 2. 妻が家計を支え、夫が家事・育児に専念する
- 3. 夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する
- 4. 夫と妻が共同で家計を支え、主に夫が家事・育児を分担する
- 5. 夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する
- 6. 夫と妻の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う
- 7. その他
- 8. 無回答

※5%以下の数字は表示していない

総数 N=1312(女性N=628/男性N=684) 20歳代N=105

#### 男女の比較

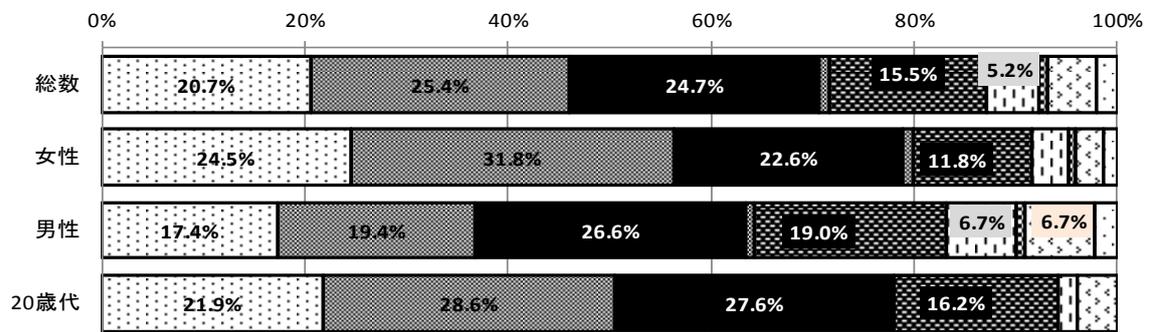
男女とも1位は、「5. 夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」女性 61.1% 男性 48.0%、2位は、「6. 夫と妻の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」女性 15.4% 男性 19.4%であるが、男性の3位には、「1. 夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」15.8%が入り、女性の同じ項目の 8.3%に比べても約2倍である。

#### 『総数』と『20歳代』の比較

『総数』と『20歳代』の上位3項目は、「5. 夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」『総数』54.1% 『20歳代』48.6%、「6. 夫と妻の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」『総数』17.5% 『20歳代』29.5%、「1. 夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」『総数』12.1% 『20歳代』13.3%で同じである。

#### (4) 女性の理想の働き方

【問4】女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の望ましい働き方と思うものはどれですか。(1つだけ○印)



- 1.結婚や出産に関わらず、仕事を続ける
- 2.子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 3.子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 4.学校卒業後は仕事をせず、結婚後または子育て終了後から仕事をする
- 5.出産するまでは仕事をして、子どもができたなら家事や育児に専念する
- 6.結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念する
- 7.仕事をしない
- 8.その他
- 9.無回答

※5%以下の数字は表示していない

総数 N=1312(女性N=628/男性N=684) 20歳代N=105

#### 男女の比較

「1. 結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」女性 24.5%男性 17.4%、「2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」女性 31.8%男性 19.4%、「3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」女性 22.6%男性 26.6%の3項目を合わせた『結婚、出産後も仕事を続ける』では、女性 78.9%が男性 63.4%より 15.5 ポイント高く、女性がより仕事を続けることを望んでいることが分かる。

また、「2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」の項目では、女性 31.8%が男性 19.4%より 12.4 ポイント高く、女性は仕事への復帰後はフルタイム志向が高いことが分かる。

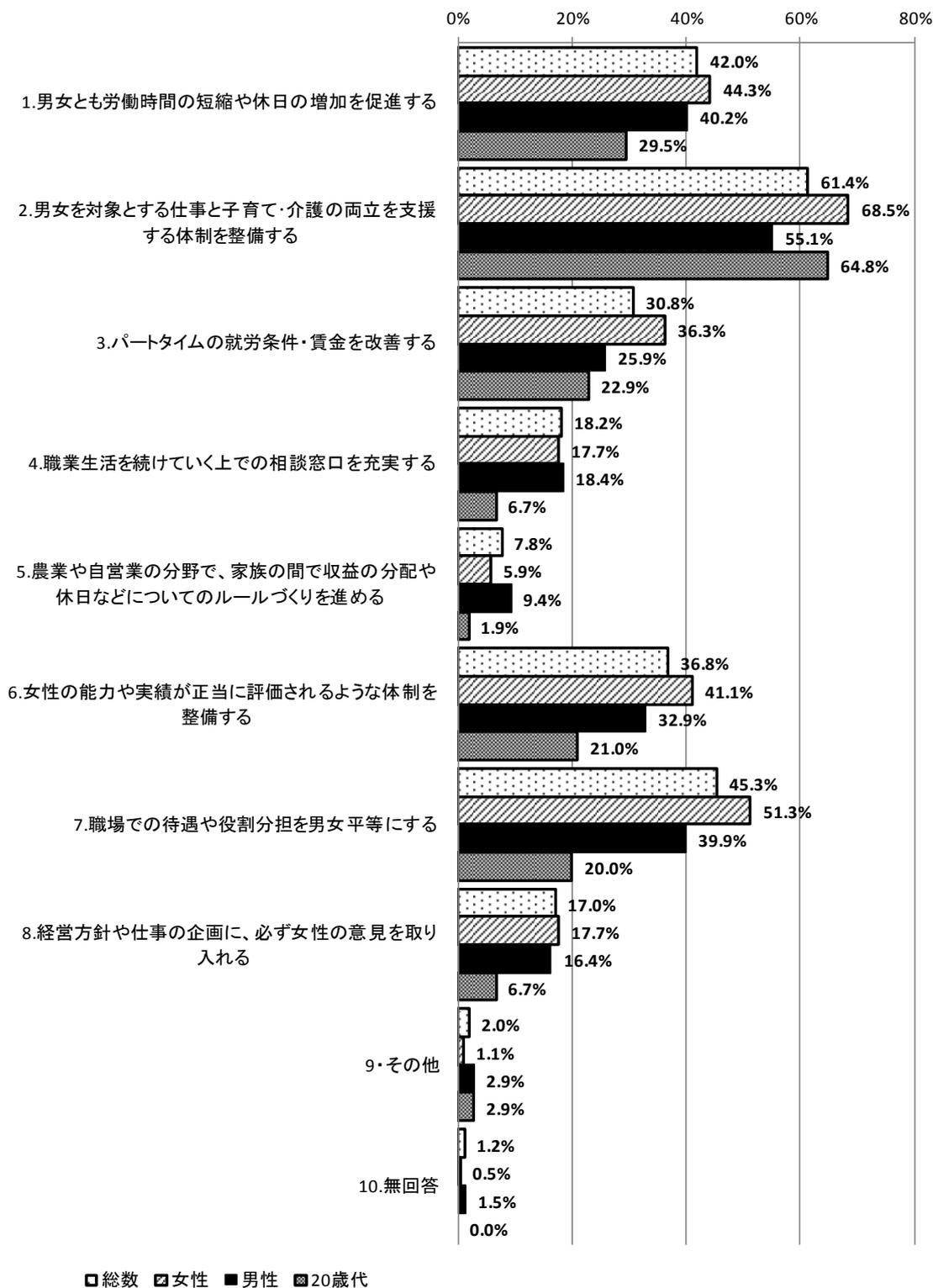
#### 『総数』と『20歳代』の比較

『総数』の上位は、1位「2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」25.4%、2位「3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」24.7%、3位「1. 結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」20.7%

『20歳代』の上位は、1位「2. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」28.6%、2位「3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」27.6%、3位「1. 結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」21.9%とほぼ同じである。

(5) 男女が共に働きやすい環境のために必要な条件

【問5】 男女が共に働きやすい環境をつくるために、あなたは何が必要だと思いますか。  
(いくつでも)



総数 N=1312(女性N=628/男性N=684) 20歳代N=105

## 男女の比較

女性の1位は、「2. 男女を対象とする仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備する」68.5%、2位は、「7. 職場での待遇や役割分担を男女平等にする」51.3%、男性の1位は、「2. 男女を対象とする仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備する」55.1%、2位は「1. 男女とも労働時間の短縮や休日の増加を促進する」40.2%であり、男女ともに仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備することの必要性を認識していることが分かる。

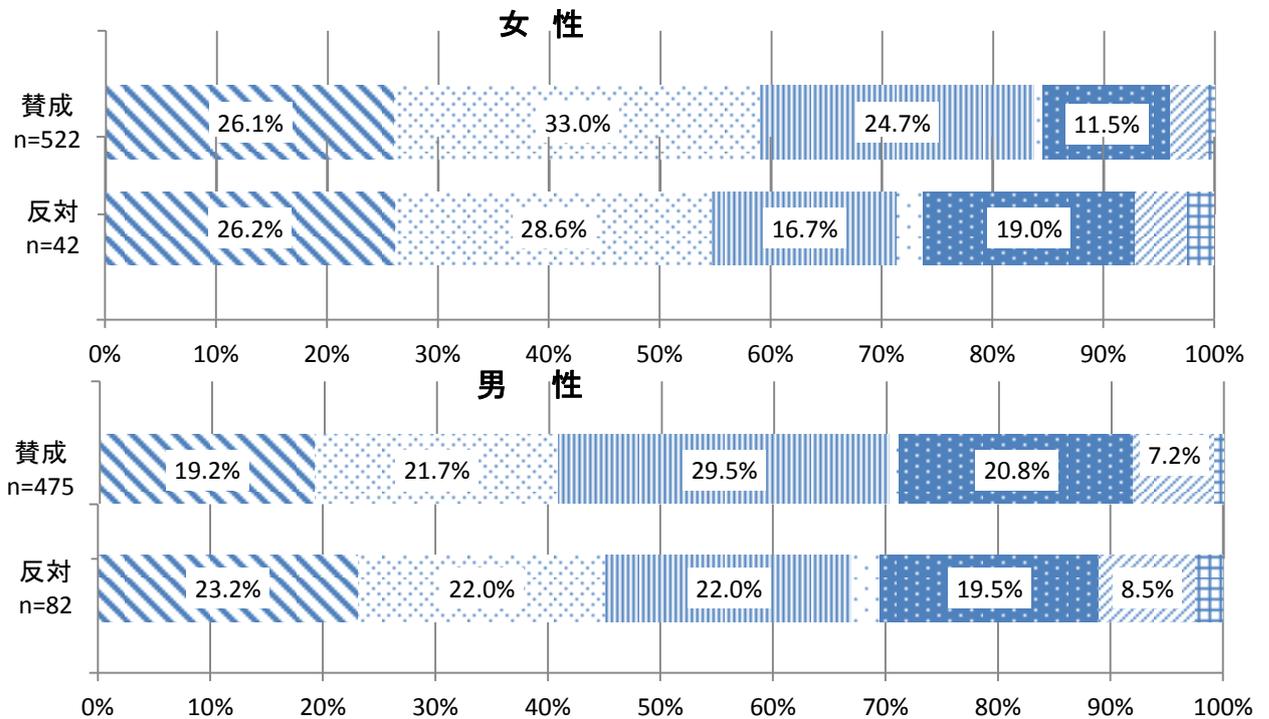
## 『総数』と『20歳代』の比較

『総数』の1位は、「2. 男女を対象とする仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備する」61.4%、2位は、「7. 職場での待遇や役割分担を男女平等にする」45.3%、『20歳代』の1位は、「2. 男女を対象とする仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備する」64.8%、2位は、「1. 男女とも労働時間の短縮や休日の増加を促進する」29.5%である。

## (6) クロス集計結果

### 【問2】「結婚、家庭、離婚についての考え方」と【問4】「女性の働き方」のクロス集計

「ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」(賛成、反対)と「女性の働き方」



- 1 結婚や出産に関わらず、仕事を続ける
- 2 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 3 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 4 学校卒業後は仕事をせず、結婚後または子育て終了後から仕事をする
- 5 出産するまでは仕事をして、子どもができたなら家事や育児に専念する
- 6 結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念する
- 7 仕事をしない

※5%以下の数字は表示していない

#### 女性

「ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」(賛成と反対)と女性の働き方をクロス集計すると、「5. 出産するまでは仕事をして、子どもができたなら家事や育児に専念する」の項目では、「ア」の質問に反対の人19.0%は賛成の人11.5%より7.5ポイント高く、出産後は専業主婦志向が高いことが分かります。

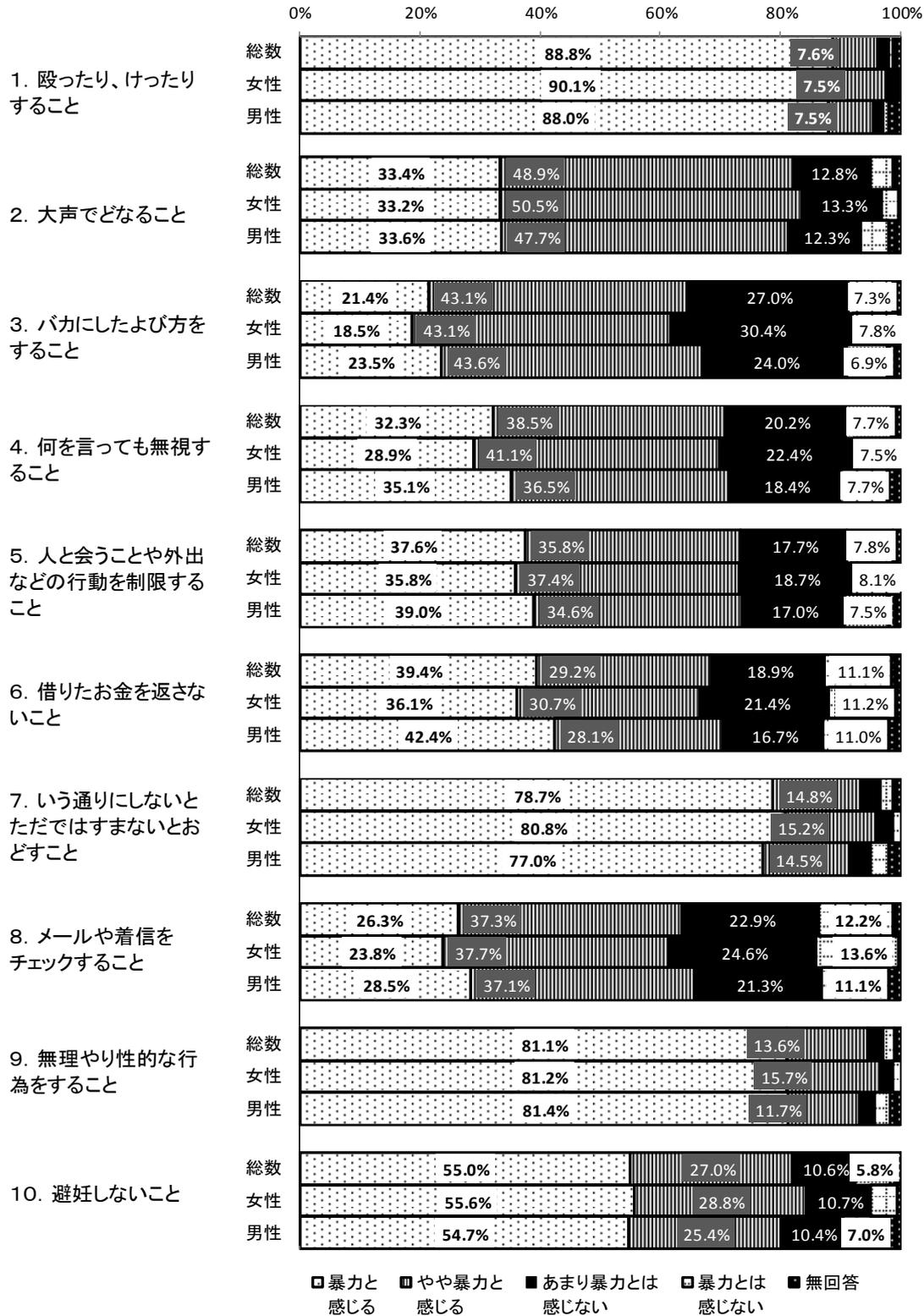
#### 男性

「ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」(賛成と反対)と女性の働き方を比較すると、上位4項目は同じであり、各項目の差も大きくないので、男性の場合、「結婚についての考え方」と「女性の働き方」の間には、明確な相関関係は無いと考えられる。

## 2. デートDV(恋人間の暴力)について

### (1) 暴力の感じ方

【問6】 次のそれぞれの行動について、あなたの感じ方に合うものに、1つずつ○印をつけてください。



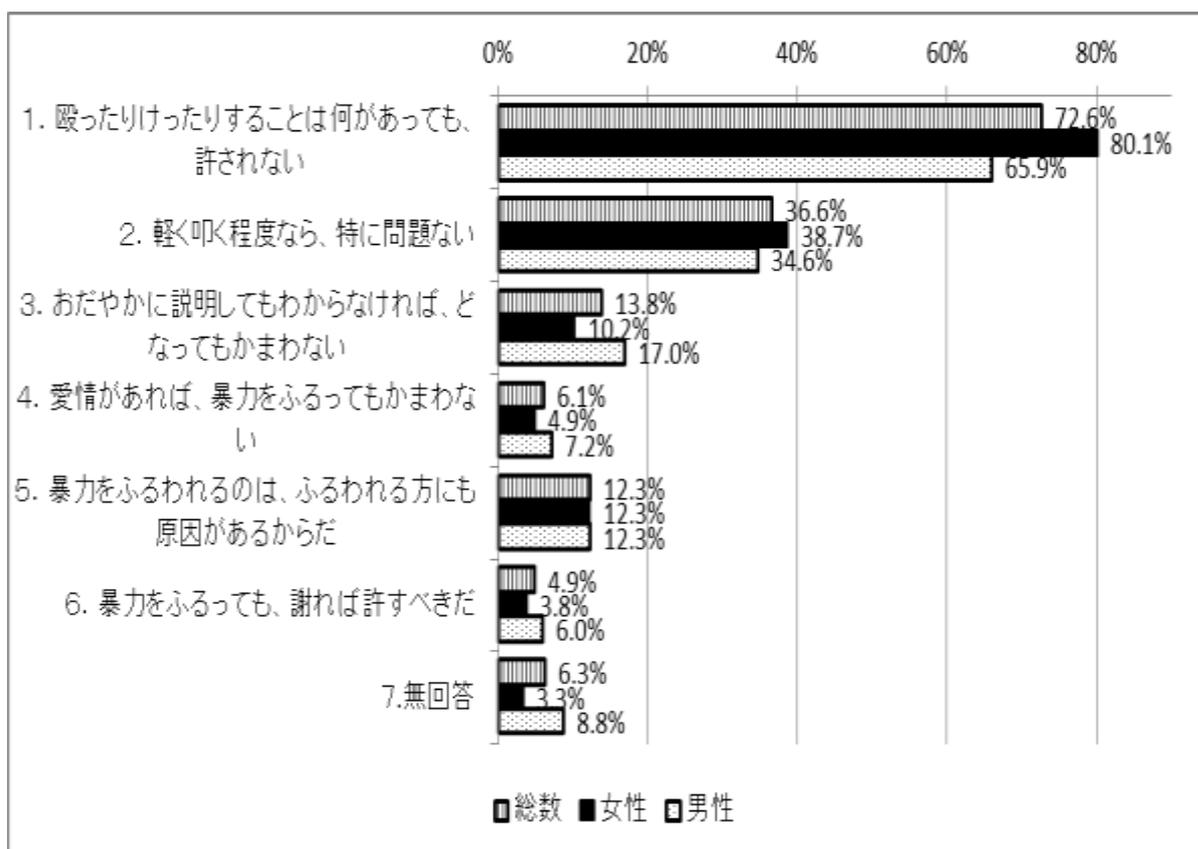
総数 N=1312 (女性N=628/男性N=684) ※5%以下の数字は表示していない

恋人間の行動で暴力と感じる女性の上位3項目は、1位「1. 殴ったり、けったりすること」90.1%、2位「9. 無理やり性的な行為をすること」81.2%、3位「7. いう通りにしないとただではすまないとおどすこと」80.8%、男性の上位3項目は、1位「1. 殴ったり、けったりすること」88.0%、2位「9. 無理やり性的な行為をすること」81.4%、3位「7. いう通りにしないとただではすまないとおどすこと」77.0%と男女で同じ順位になっている。

「1. 殴ったり、けったりすること」女性 90.1%男性 88.0%、「9. 無理やり性的な行為をすること」女性 81.2%男性 81.4%の2つに比べて、性的な暴力の一つである「10. 避妊しないこと」女性 55.6%男性 54.7%は暴力と感じる割合が低く、避妊しないことなどの相手が望まない性行為は性的暴力であるという意識が低いことが分かる。

## (2) 暴力についての考え方

【問7】暴力について、あなたの考え方に合うものに○印をつけてください。(いくつでも)



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

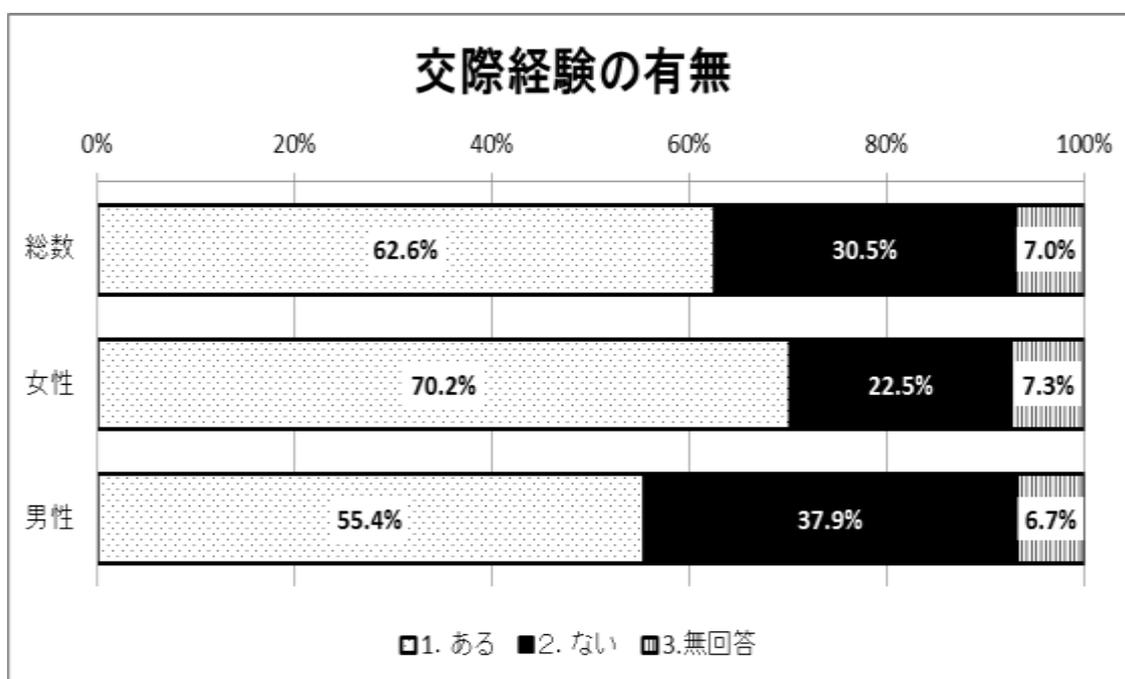
「1. 殴ったりけったりすることは何があっても、許されない」は、女性 80.1%男性 65.9%で、女性の方が 14.2 ポイント高くなっている。

「2. 軽く叩く程度なら、特に問題がない」は、女性 38.7%男性 34.6%で、男女とも暴力でないとする傾向がある。

「3. おだやかに説明してもわからなければ、どなってもかまわない」女性 10.2%男性 17.0%、  
「4. 愛情があれば、暴力をふるってもかまわない」女性 4.9%男性 7.2%、「6. 暴力をふるっても、謝れば許すべきだ」女性 3.8%男性 6.0%の3項目は男性の割合が高くなっている。

### (3) 交際経験

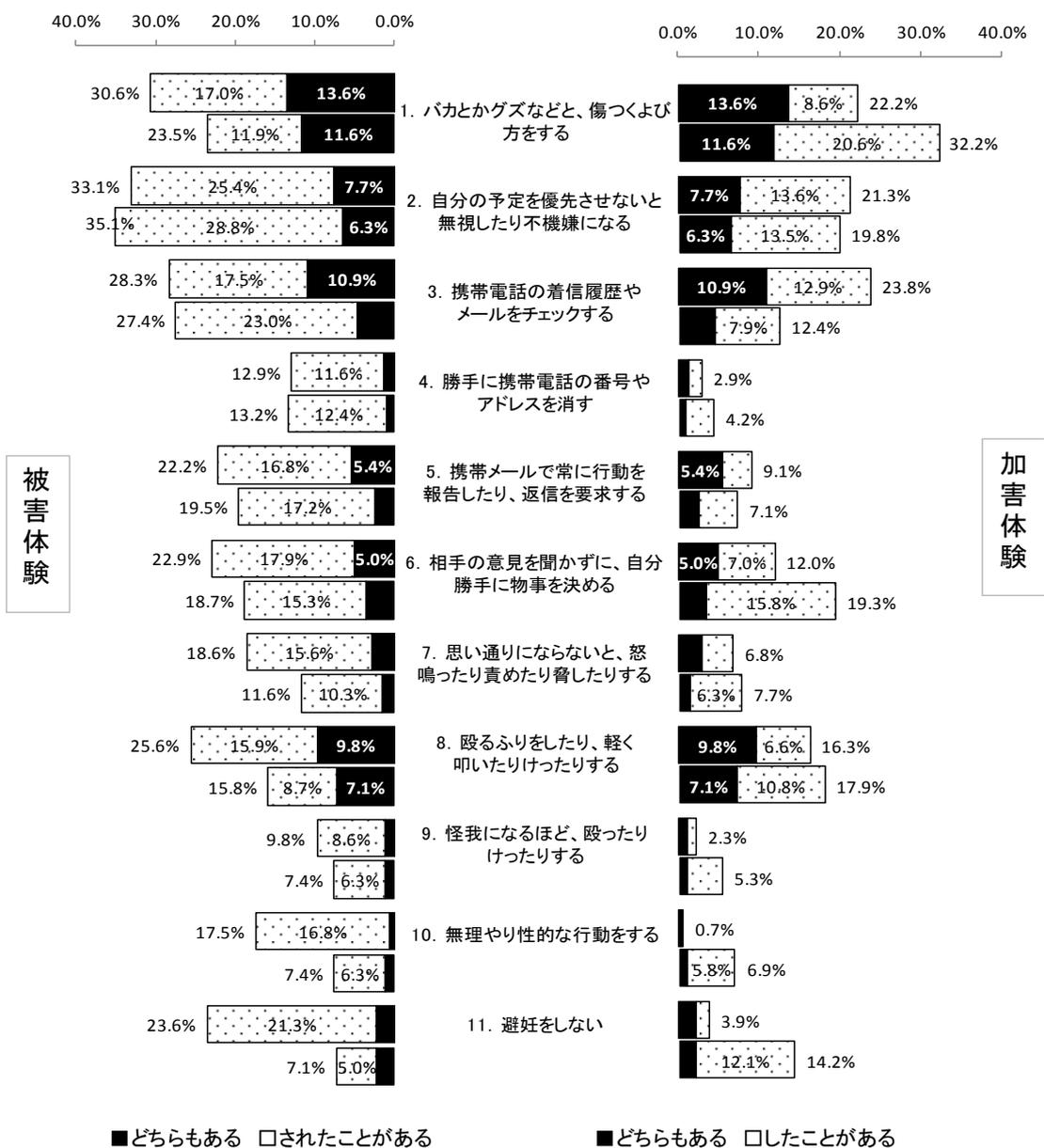
【問8】 あなたは特定の人と付き合い合った経験がありますか。



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

#### (4)デートDVの実態

【問9】 あなたの付き合った経験の中でのできごとについてお聞きします。次のような行動をしたり、されたりしたことがありますか。あてはまるものに○印をつけてください。



総数N=820(上段:女性N=441/下段:男性N=379)  
 ※内訳の5%以下の数字は表示していない

## 1. 被害体験

女性の被害体験の上位3項目を見てみると、「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」33.1%、「1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする」30.6%、「3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」28.3%となっている。

男性の被害体験の上位3項目は、「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」35.1%、「3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェクする」27.4%、「1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする」23.5%となっている。

「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」は男女とも1位であり、その理由として、「付き合っている相手は自分の予定にあわせるのが当然だ」という潜在意識や思い込みが男女とも有ることが考えられる。

性的な暴力である「10. 無理やり性的な行動をする」男性 7.4%女性 17.5%、「11. 避妊をしない」男性 7.1%女性 23.6%は男女間で差がある。

## 2. 加害体験

女性の加害体験の上位3項目は、「3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」23.8%、「1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする」22.2%、「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」21.3%となっている。

男性の加害体験の上位3項目は、「1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする」32.2%、「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」19.8%、「6. 相手の意見を聞かずに、自分勝手に物事を決める」19.3%となっている。

加害体験の上位3項目の「1」「2」は共通であるが、女性は「3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」が1位、男性は「6. 相手の意見を聞かずに、自分勝手に物事を決める」が3位となっている。

加害体験の中で、「11. 避妊しない」男性 14.2%、女性 3.9%、「10. 無理やり性的な行動をする」男性 6.9%、女性 0.7%の性的な暴力と、「9. 怪我になるほど、殴ったりけったりする」男性 5.3%、女性 2.3%の身体的な暴力は、男性の加害体験が高い傾向が表れている。

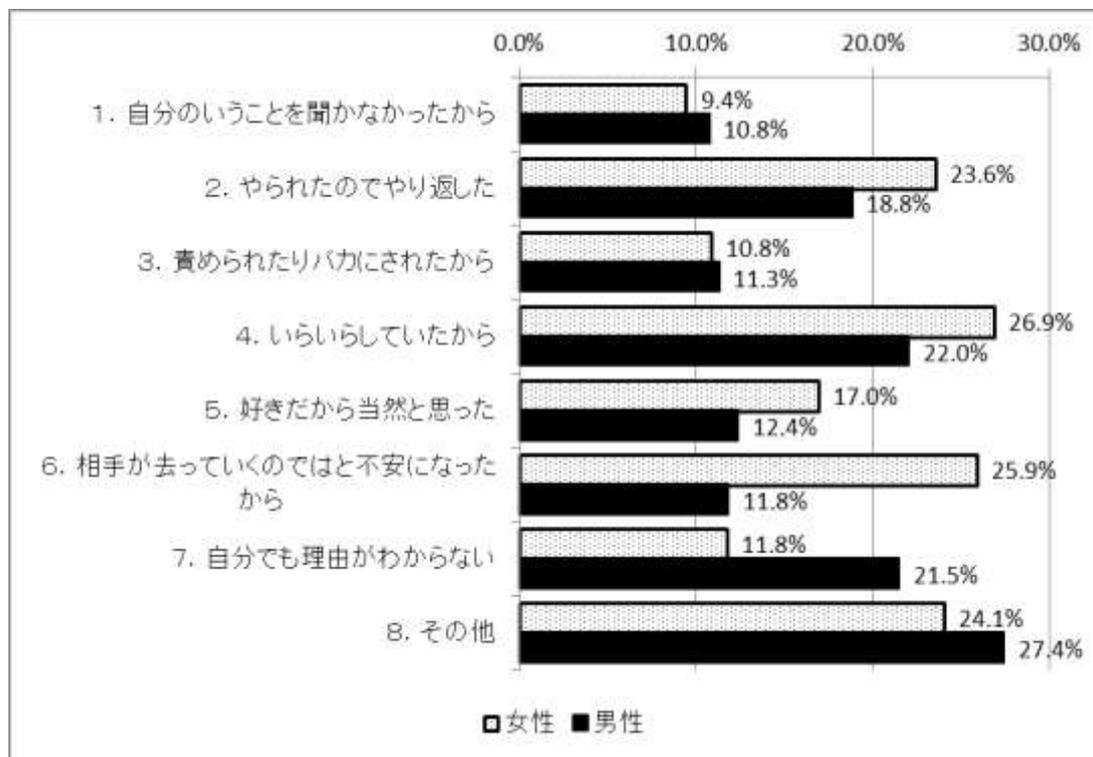
「3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」は、女性 23.8%が男性 12.4%より 11.4ポイント高くなっている。

また、「5. 携帯メールで常に行動を報告したり、返信を要求する」は女性 9.1%が男性 7.1%を 2.0ポイント上回っており、「3」の項目と併せて考えると携帯を通じて女性が男性の行動を監視する意識が強いことが表れている。

## (5)加害について

【問10】 問9で「したことがある」に1つでも該当する人にお聞きします。

(1) そのようなことをした理由として、あてはまるものに○印をつけてください。(いくつでも)

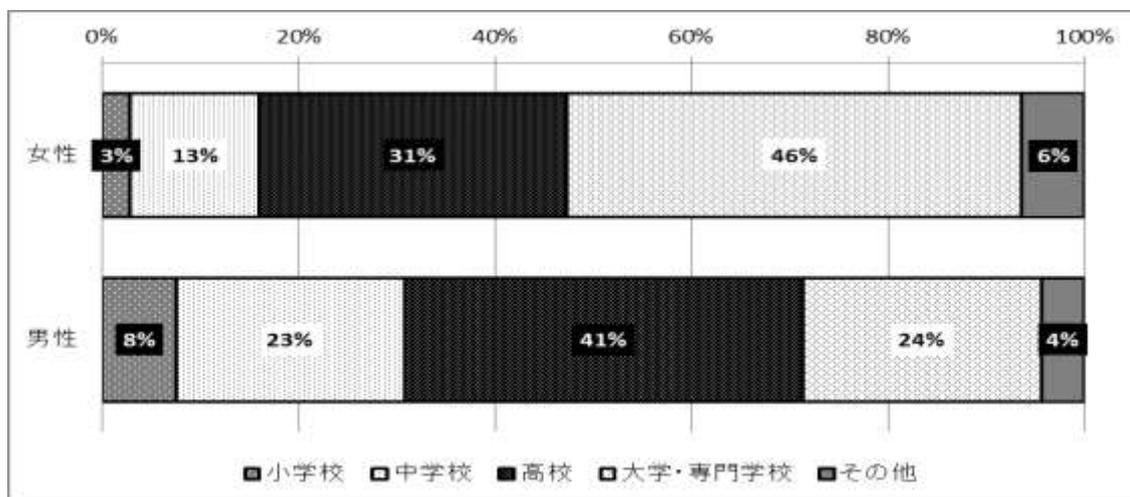


総数N=820(女性N=441/男性N=379)

加害理由は男女とも、1位「4. いらいらしてたから」女性 26.9%男性 22%、3位「2. やられたのでやり返した」女性 23.6%男性 18.8%と同じであるが、2位は、女性「6. 相手が去っていくのではと不安になったから」25.9%、男性「7. 自分でも理由が分からない」21.5%と男女で違っている。

男性の「7. 自分でも理由が分からない」は女性の1.8倍(男性21.5%÷女性11.8%)もあり、男性が暴力をふるう理由を十分に自覚していないことが分かる。「8. その他」は女性 24.1%男性 27.4%と数値が高く、「思いどおりにならない」「不信感があった」というような回答や「からかい」「悪ふざけ」「なんとなく」「冗談」という罪悪感の無いような回答もあった。

(2) 初めてしたのはいつ頃でしたか。学校、学年を選んでください。



総数N=820(女性N=441/男性N=379)

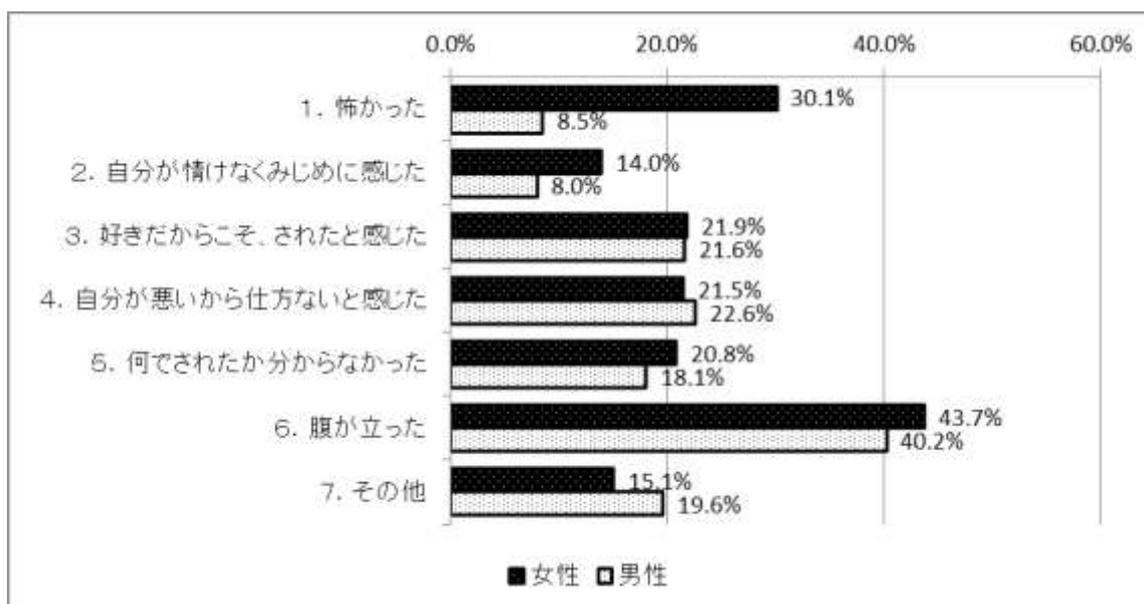
小学校までに、女性3%男性8%が「したことがある」と答えており、小中学校という早い段階からデートDVの啓発をしていく必要があると考えられる。

ついて

#### (6)被害について

【問11】問9で「されたことがある」に1つでも該当する人にお聞きます。

(1) そのときの気持ちについて、あてはまるものに○印をつけてください。(いくつでも)



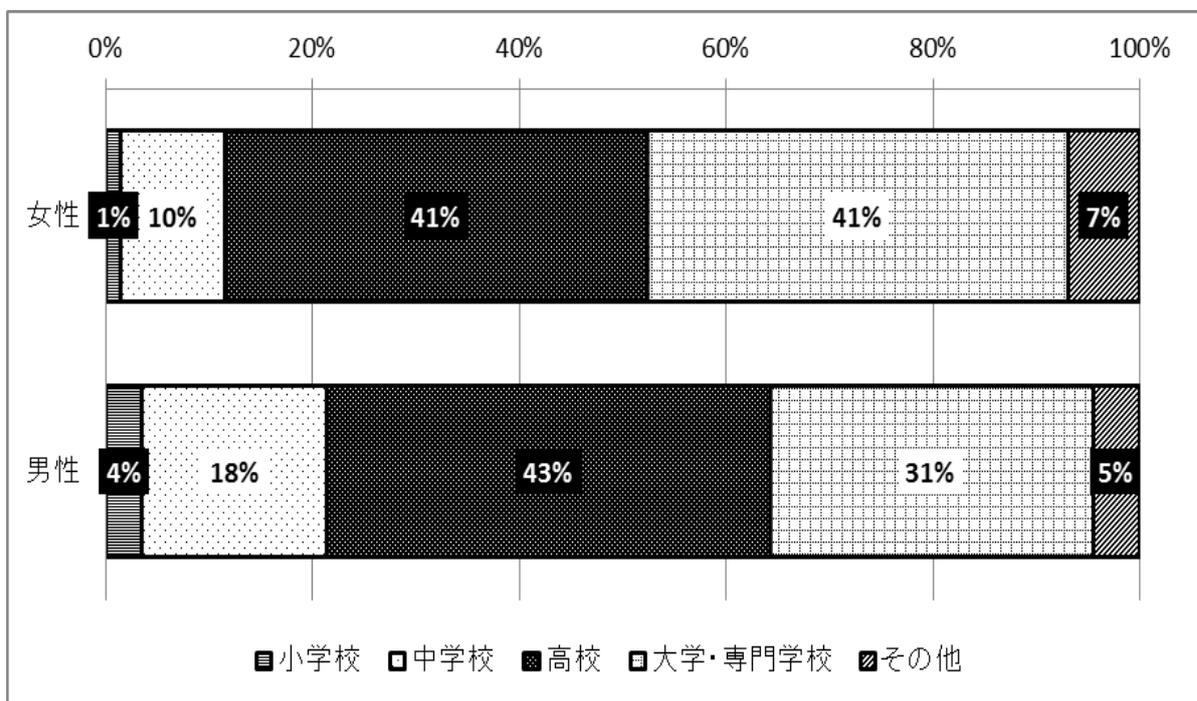
総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

女性の被害者の上位3項目は、「6. 腹がたった」43.7%、「1. 怖かった」30.1%、「3. 好きだからこそ、されたと感じた」21.9%となっている。

男性の被害者の上位3項目は、「6. 腹がたった」40.2%、「4. 自分が悪いから仕方ないと感じた」22.6%、「3. 好きだからこそ、されたと感じた」21.6%であり、男女で傾向が少し違っている。

女性の被害者の「1. 怖かった」30.1%が、男性の被害者は 8.5%で、女性が男性に比べて約 3.5 倍高く、暴力を恐怖と感じている。

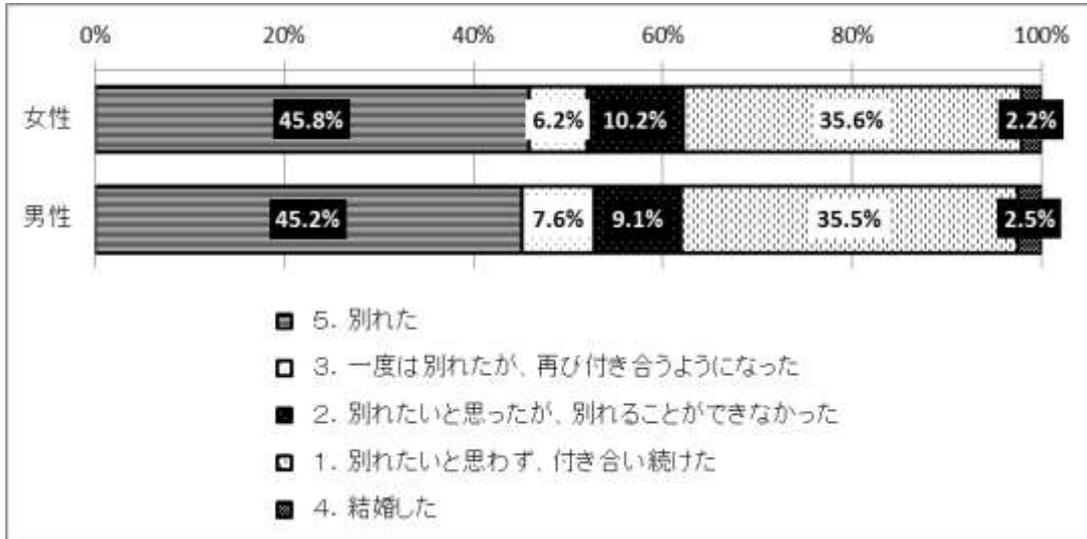
(2)初めてされたのはいつ頃でしたか。学校、学年を選んでください。



総数N=1312（女性N=628／男性N=684）

男性は中学校までに「デートDVをされたことがある」と回答した割合が 22%(4%+18%)と女性 11%(1%+10%)に比べて高くなっている。

(3)その後、その相手との関係はどうなりましたか。あてはまるものを1つ選んで○印をつけてください。

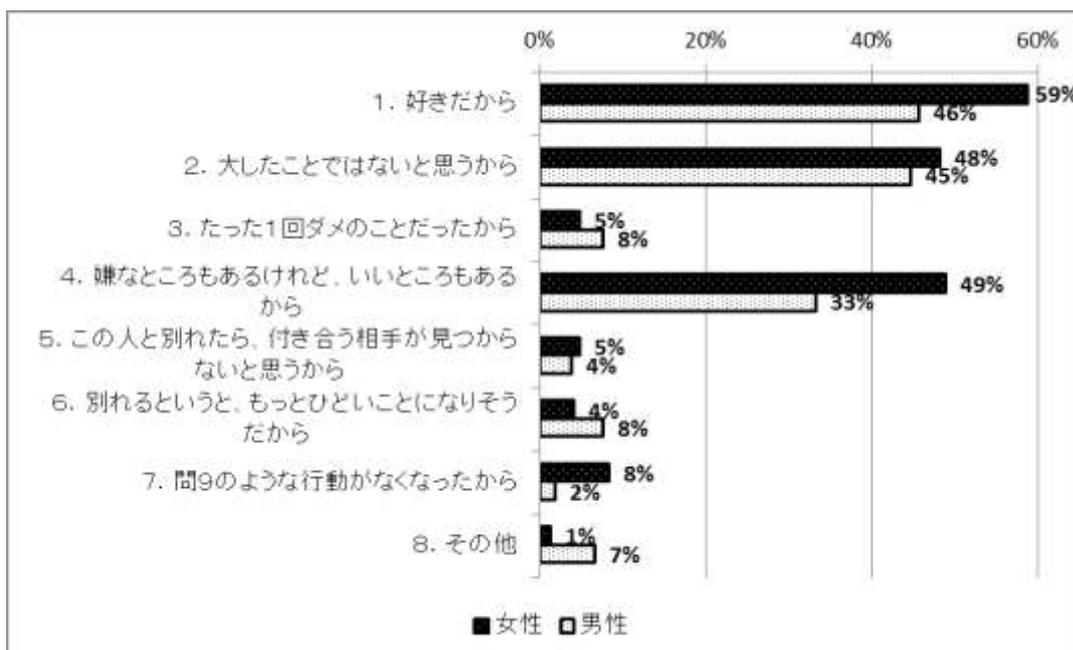


総数N=1312（女性N=628／男性N=684）

被害を受けた相手との関係の中で、「5. 別れた」が女性 45.8%男性 45.2%となっているが、50%を超える男女(女性 52%男性 52.2%、「4. 結婚した」を除く)が暴力を受けてもなお別れずに付き合いを継続していることが伺える。

(4)前問(3)で1～4を選んだ方にお聞きします。

別れなかった理由と思うものに○印をつけてください。(いくつでも)

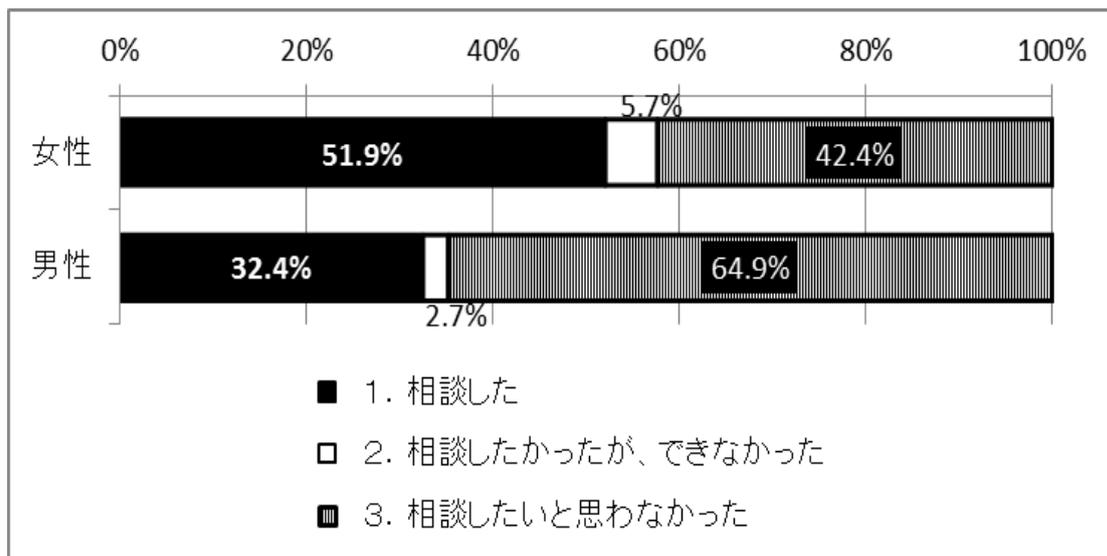


総数N=1312（女性N=628／男性N=684）

女性の上位3項目は、1位「1. 好きだから」59%、2位「4. 嫌いなところもあるけれど、いいところもあるから」49%、3位「2. 大したことではないと思うから」48%となっている。

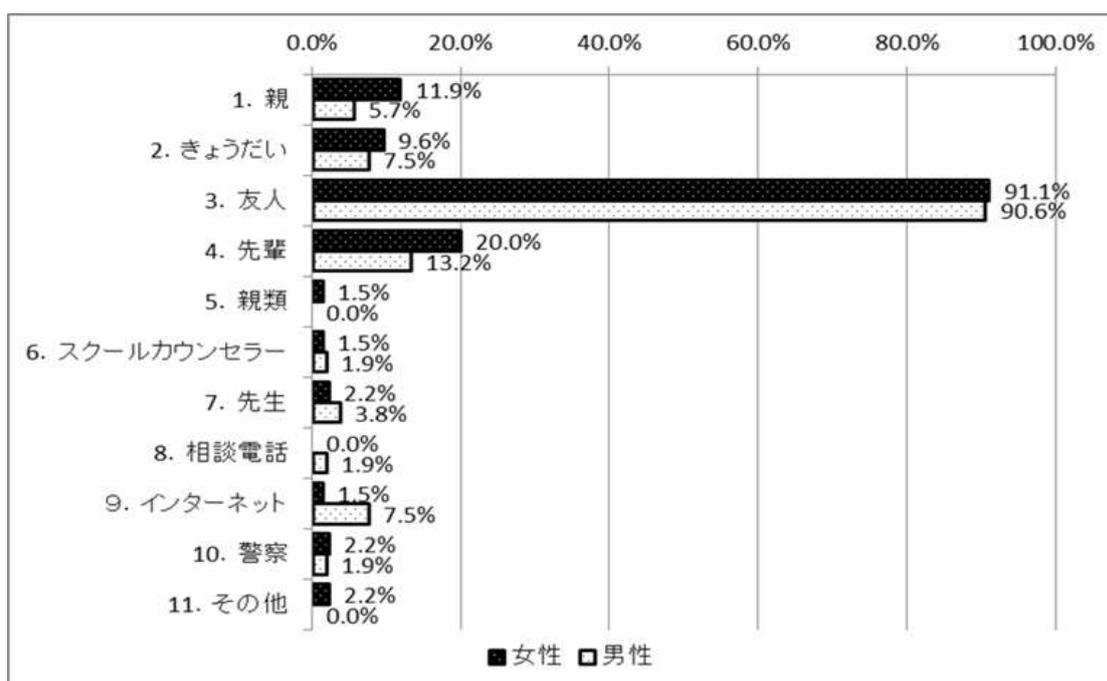
男性の上位3項目は、1位「1. 好きだから」46%、「2. 大したことではないと思うから」45%、「4. 嫌いなところもあるけれど、いいところもあるから」33%となっており、男女で順位は違うが同じ項目である。

(5) 誰か(どこか)に相談しましたか。あてはまるものに○印をつけてください。



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

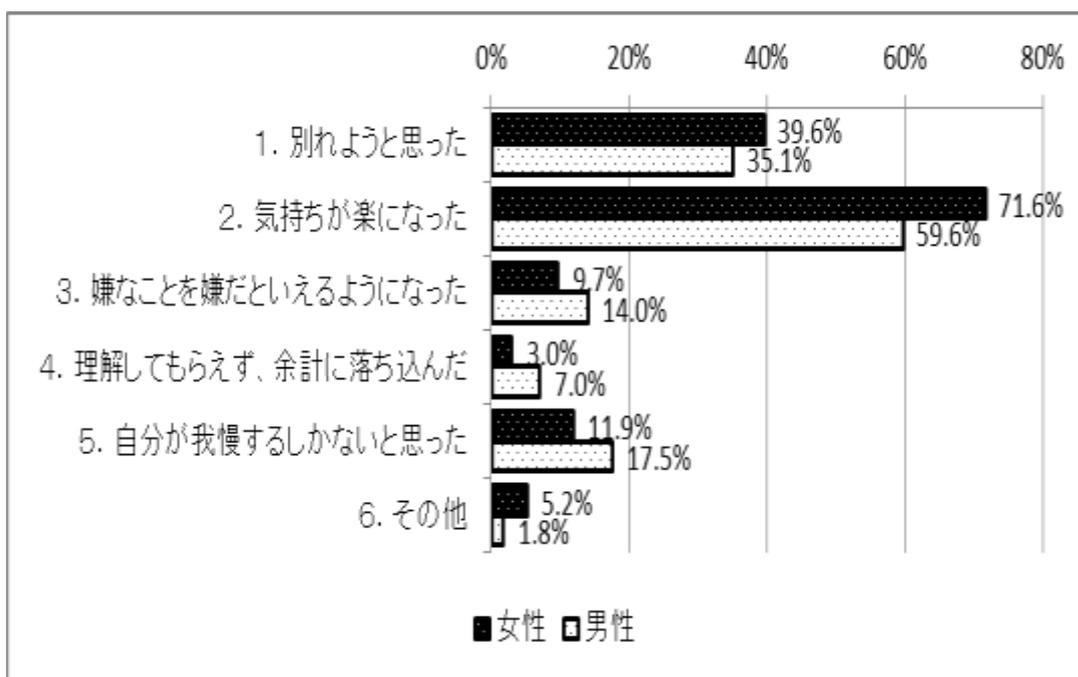
→ 相談した相手を選び(6)へ



女性の上位3項目は、1位「3. 友人」91.1%、2位「4. 先輩」20%、3位「1. 親」11.9%である。「1. 親」11.9%と「2. きょうだい」9.6%の合計は 21.5%で、家族の割合が低くなっている。

男性の上位3項目も女性の項目と同一であるが、インターネットの項目では、男性 7.5%が女性 1.5%より 6.0 ポイント高くなっている。

(6) 相談した人は、相談してみてどうなりましたか。あてはまるものに○印をつけてください。  
(いくつでも)



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

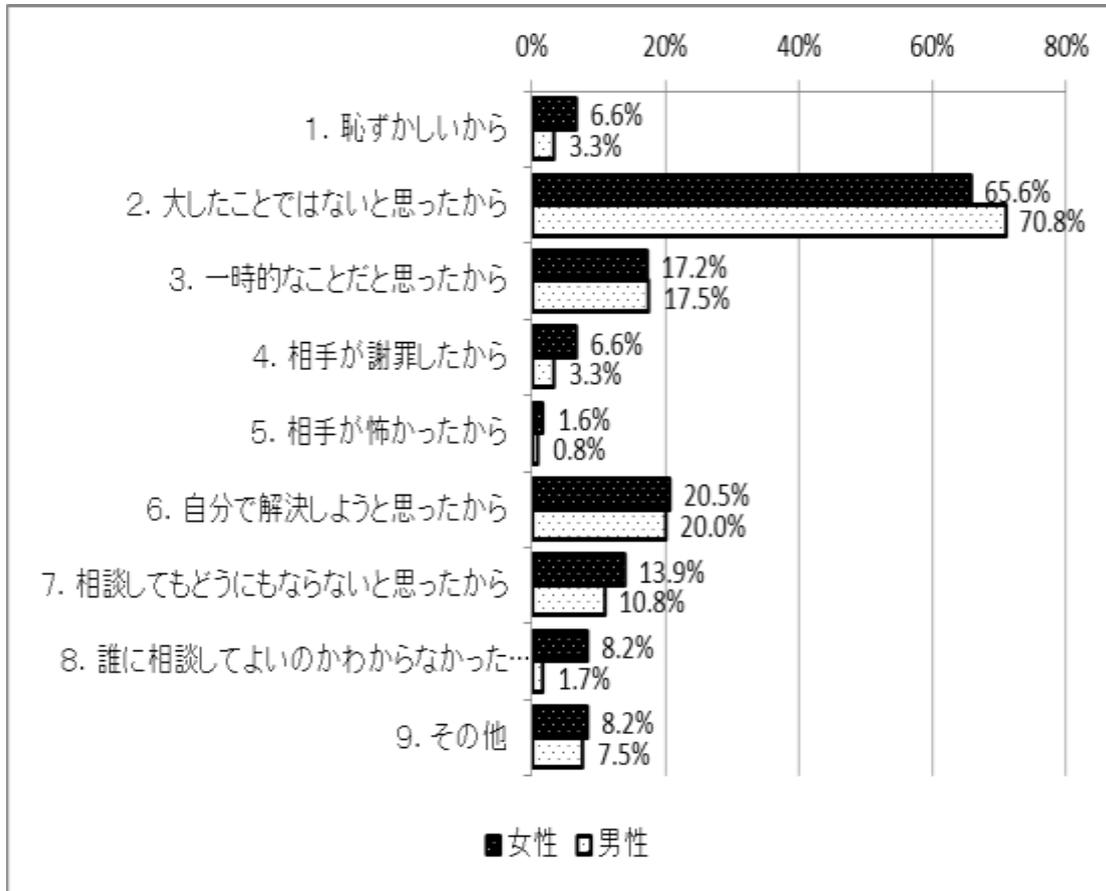
相談後の気持ち(女性)の上位2項目は、「2. 気持ちが楽になった」71.6%、「1. 別れようと思った」39.6%であり、男性も「2. 気持ちが楽になった」59.6%、「1. 別れようと思った」35.1%で、同じ順位になっている。

男女とも相談することで、気持ちの整理がついたり、別れのきっかけが出てきたりしていることが分かる。

「4. 理解してもらえず、余計に落ち込んだ」は女性3%男性7%あり、二次的な被害を受けている場面もあると考えられる。

90%の人が友人に相談していることから、若い世代に対して、デートDVの理解と共にデートDVを相談された時の対応の基本や相談機関の情報なども併せて広く啓発していく必要がある。

(7) 相談しなかった(できなかった)人は、その理由としてあてはまるものを選んでください。  
(複数可)



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

相談しなかった理由(女性)の上位3項目は、「2. 大したことではないと思ったから」65.6%、「6. 自分で解決しようと思ったから」20.5%、「3. 一時的なことだと思ったから」17.2%であり、男性も同じ順位になっている。

「8. 誰に相談してよいかわからなかったから」は、女性8.2%男性1.7%あり、「誰に相談したらいいのか」の情報が十分に伝わっていないことから、適切な相談相手や相談機関についてPRしていく必要がある。

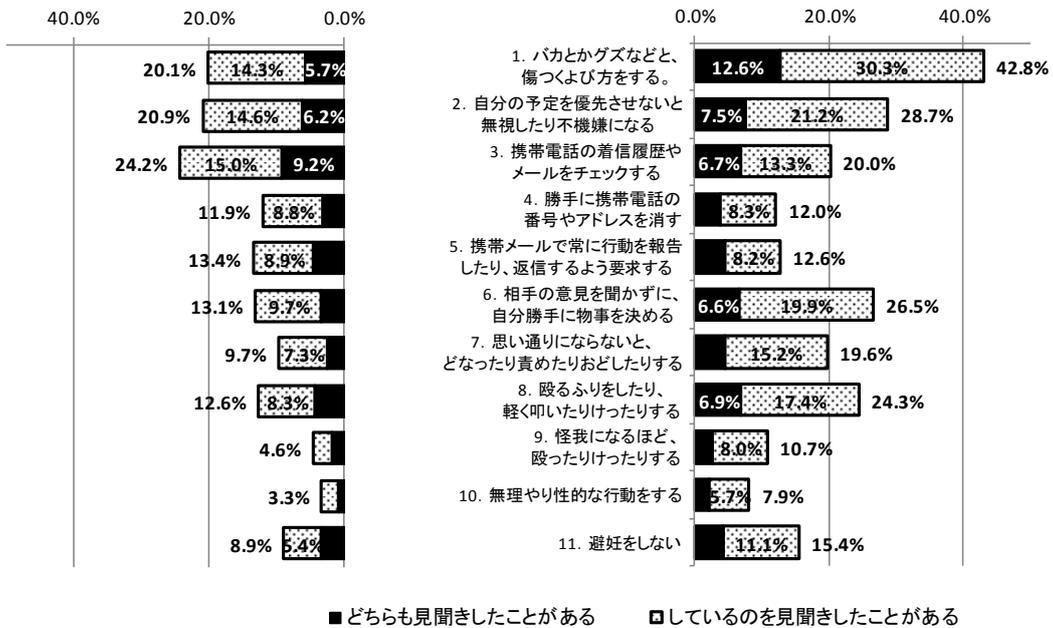
(7)デートDVを見聞きした体験

【問12】 次のような行動を、友人がしたりされたりしているのを、見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○印をつけてください。

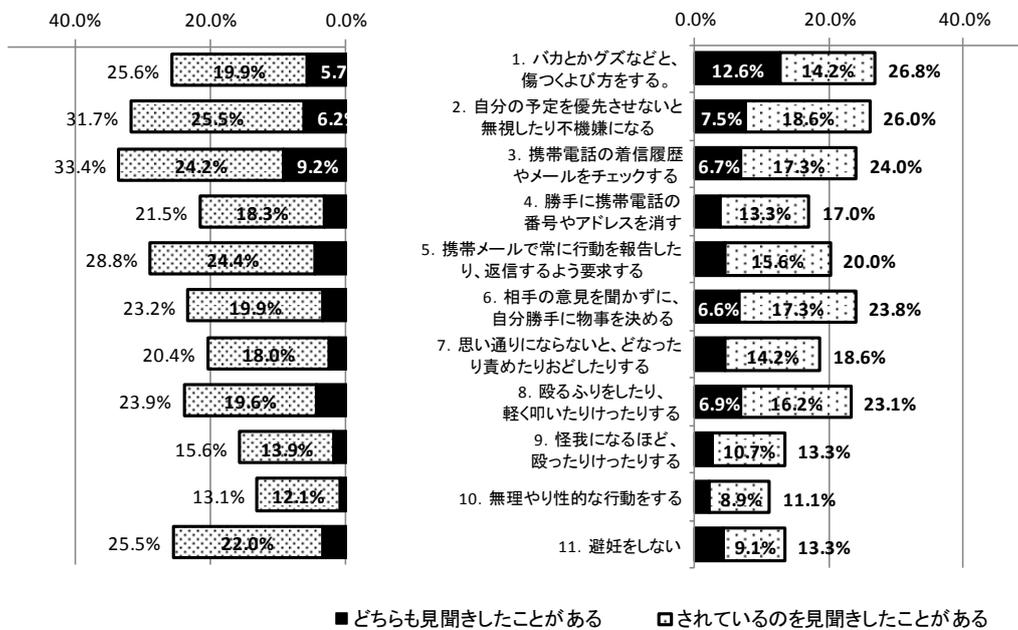
女性

男性

加害体験



被害体験



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

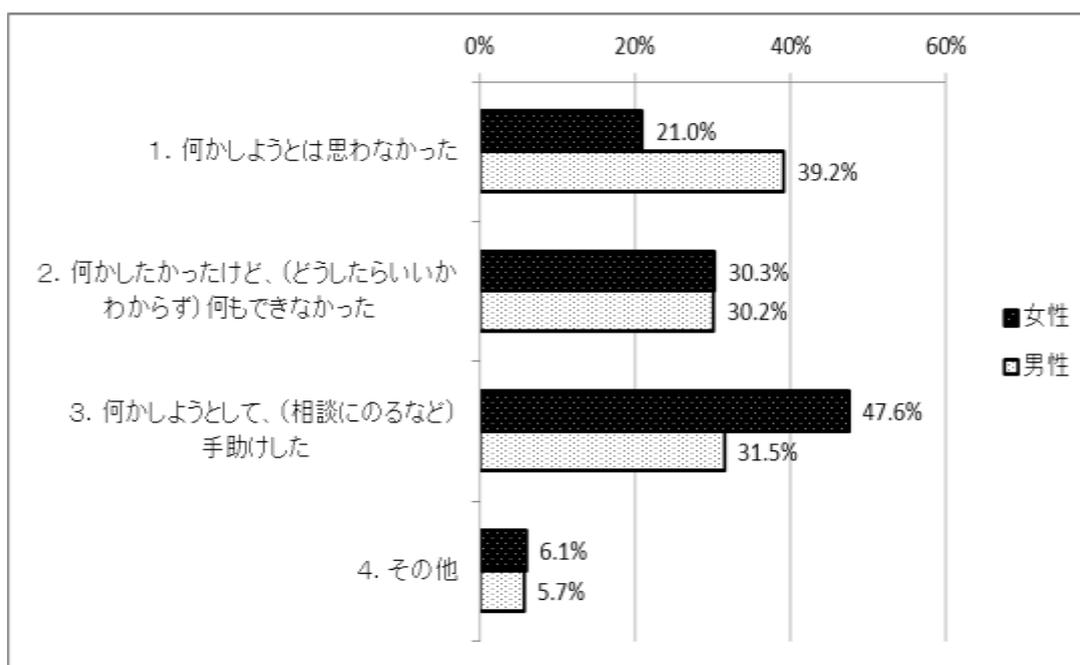
※内訳の5%以下の数字は表示していない

女性が見聞きした加害体験の上位3項目は、「3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」24.2%、「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」20.9%、「1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする」20.1%となっている。

男性が見聞きした加害体験の上位3項目は、「1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする」42.8%、「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」28.7%、「6. 相手の意見を聞かずに、自分勝手に物事を決める」26.5%で、「1」が42.8%と突出している。

また、女性が見聞きした被害体験の上位3項目は、「3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」33.4%、「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」31.7%、「5. 携帯メールで常に行動を報告したり、返信するように要求する」28.8%で、男性が見聞きした被害体験の上位3項目は、「1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする」26.8%、「2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」26.0%、「3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」24.0%となっている。

【問13】 問12に1つでも該当する人は、それに対してどうしましたか。(いくつでも)



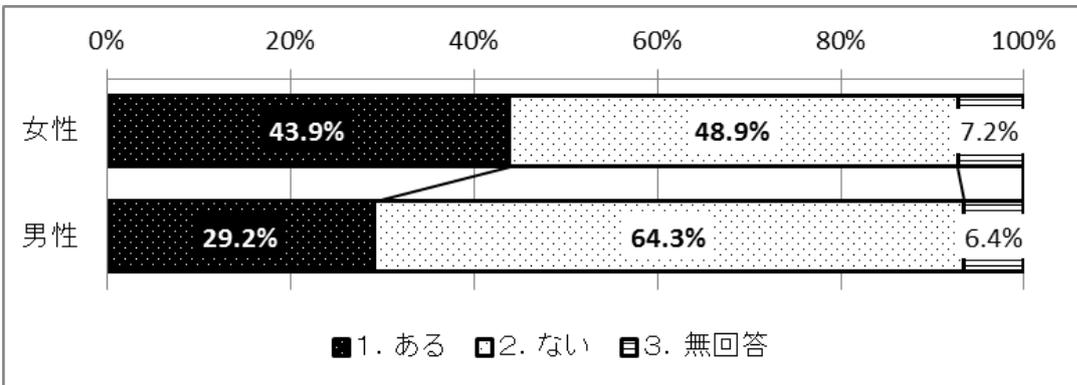
総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

女性の1位は「3. 何かしようとして、(相談にのるなど)手助けした」47.6%、2位「2. 何かしたかったけど、(どうしたらいいかわからず)何もできなかった」30.3%、男性の1位は「1. 何かしようとは思わなかった」39.2%、2位「3. 何かしようとして、(相談にのるなど)手助けした」31.5%となっている。

「3. 何かしようとして、(相談にのるなど)手助けした」と「2. 何かしたかったけど、(どうしたらいいかわからず)何もできなかった」の「何かしようとした人」の割合は、女性 77.9%(30.3%+47.6%)が男性 61.7%(30.2%+31.5%)より16.2ポイント高くなっている。

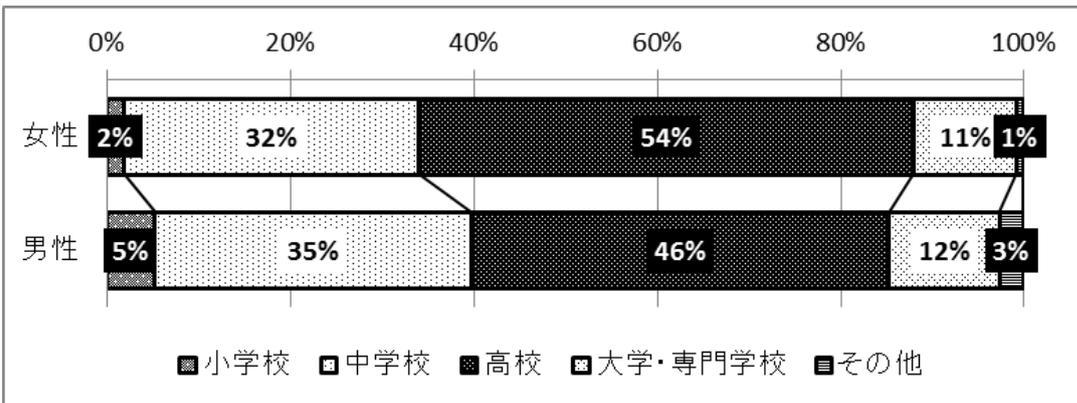
(8) 学習機会

【問14】 これまでに「デートDV」について学んだことがありますか。  
あてはまるものを選んでください。



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

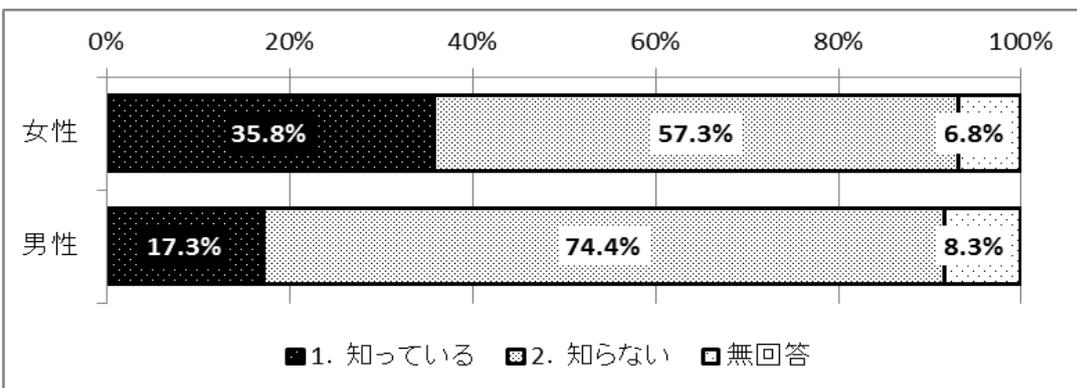
(1) 初めて学んだのはいつ頃でしたか。学校、学年を選んでください。



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

(9) 相談機関の認知度

【問15】 あなたは、デートDVなどについて相談できる機関(こうち男女共同参画センター「ソール」)があることを知っていますか。



総数N=1312 (女性N=628/男性N=684)

## (10)クロス集計結果

「暴力への感じ方」「暴力への許容度」「加害体験」(デートDV意識調査の質問項目)及び「性別役割分担意識」(男女共同参画に関する意識調査の質問項目)のクロス集計

- ・「性別役割分担意識」と「暴力への感じ方」…A-1、A-2
- ・「暴力への感じ方」と「暴力への許容度」 …B-1、B-2
- ・「暴力への感じ方」と「加害体験」 …C-1、C-2

### A-1 「性別役割分担意識」と「暴力への感じ方」との関係

図表1は問3「性別役割分担意識」と問6「暴力への感じ方」のクロス集計

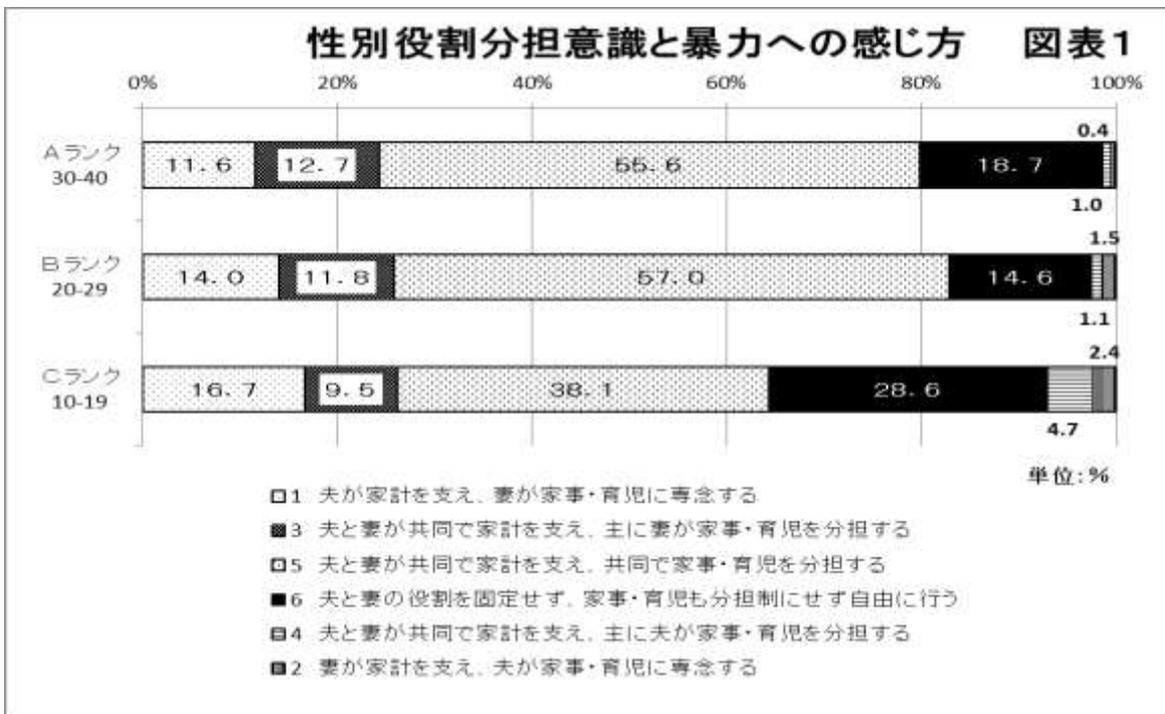
グラフの縦軸

〈暴力への感じ方A・B・C〉

問6の「暴力への感じ方」の10項目を点数化し、「暴力と感じる」を4点、「やや暴力と感じる」を3点、「あまり暴力と感じない」を2点、「暴力とは感じない」を1点として配点し、Aランクを30点～40点、Bランクを20点～29点、Cランクを10点～19点の3段階で比較した。点数が高いほど暴力への感じ方が高いといえる。

グラフの横軸 問3の回答項目(1～6)

〈暴力への感じ方A・B・C〉 Aランク(N=891) Bランク(N=356) Cランク(N=42)



暴力への感じ方に関して、性別役割分担意識1～6の割合を見ると、暴力への感じ方が高い者(Aランク)は、中程度の者(Bランク)・低い者(Cランク)より「1. 夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」の割合が低く、**固定的性別役割分担意識にとらわれていないことが分かる。**

## A-2 「性別役割分担意識」と「暴力への感じ方」との関係

図表2は問3「性別役割分担意識」と問6「暴力への感じ方」のクロス集計

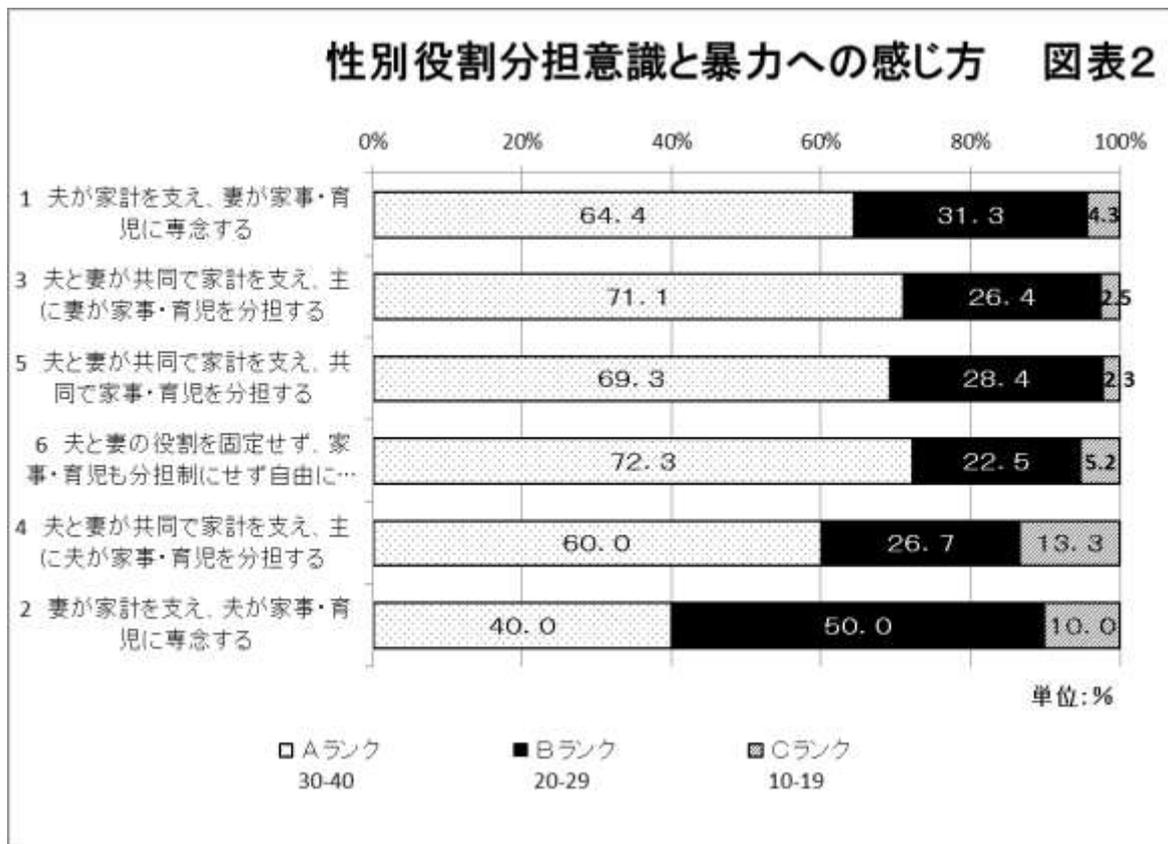
グラフの縦軸 問3の回答項目(1～6)

グラフの横軸

〈暴力への感じ方A・B・C〉

問6の「暴力への感じ方」の10項目を点数化し、「暴力と感じる」を4点、「やや暴力と感じる」を3点、「あまり暴力と感じない」を2点、「暴力とは感じない」を1点として配点し、Aランクを30点～40点、Bランクを20点～29点、Cランクを10点～19点の3段階で比較した。点数が高いほど暴力への感じ方が高いといえる。

1(N=160)、2(N=159)、3(N=714)、6(N=231)、4(N=15)、2(N=10)



性別役割分担意識に関して、暴力への感じ方(Aランク～Cランク)の割合を見ると、**固定的性別役割分担意識にとらわれている「1」は、性別役割分担に関して平等な意識を持っている「5」「6」に比べて暴力への感じ方が高い者(Aランク)の割合が低くなっていることが分かる。**

## B-1 「暴力への感じ方」と「暴力への許容度」との関係

図表3は問6「暴力への感じ方」と問7「暴力への許容度」のクロス集計

グラフの縦軸

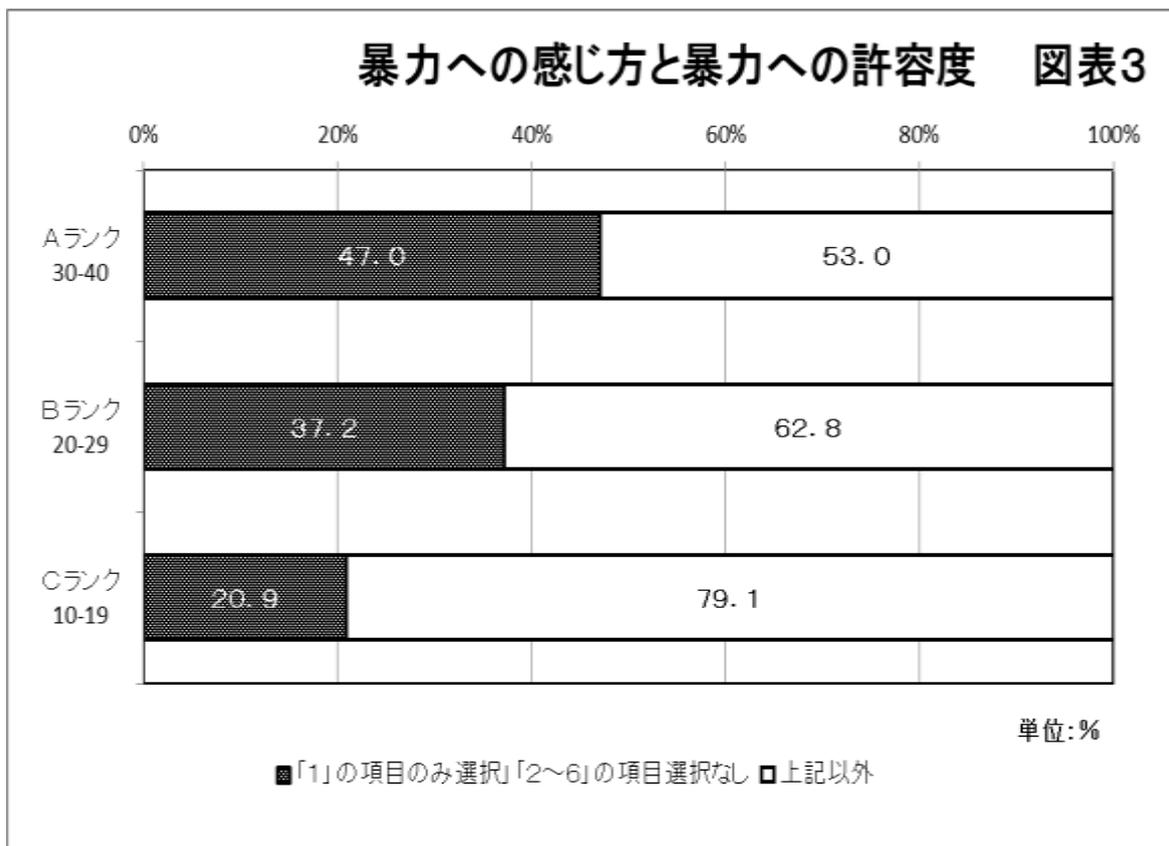
〈暴力への感じ方A・B・C〉

問6の「暴力への感じ方」の10項目を点数化し、「暴力と感じる」を4点、「やや暴力と感じる」を3点、「あまり暴力と感じない」を2点、「暴力とは感じない」を1点として配点し、Aランクを30点～40点、Bランクを20点～29点、Cランクを10点～19点の3段階で比較した。点数が高いほど暴力への感じ方が高いといえる。

グラフの横軸

問7の回答項目の内、「1. 殴ったりけったりすることは…」を選んで、「2～6」の項目を選ばなかった者とそれ以外の者

〈暴力への感じ方A・B・C〉 Aランク(N=891) Bランク(N=356) Cランク(N=42)



暴力への感じ方に関して、「1」の項目のみ選択して、「2～6」の項目を選択しなかった者(暴力への許容度が低い者)とそれ以外の者の割合を見ると、暴力への感じ方が高い者(Aランク)は、暴力への許容度が低い者の割合が高く、暴力に対する許容度が厳しいことが分かる。

## B-2 「暴力への感じ方」と「暴力への許容度」との関係

図表4は問6「暴力への感じ方」と問7「暴力への許容度」のクロス集計

### グラフの縦軸

問7の回答項目の内、「1. 殴ったりけったりすることは…」を選んで、「2～6」の項目を選ばなかった者とそれ以外の者

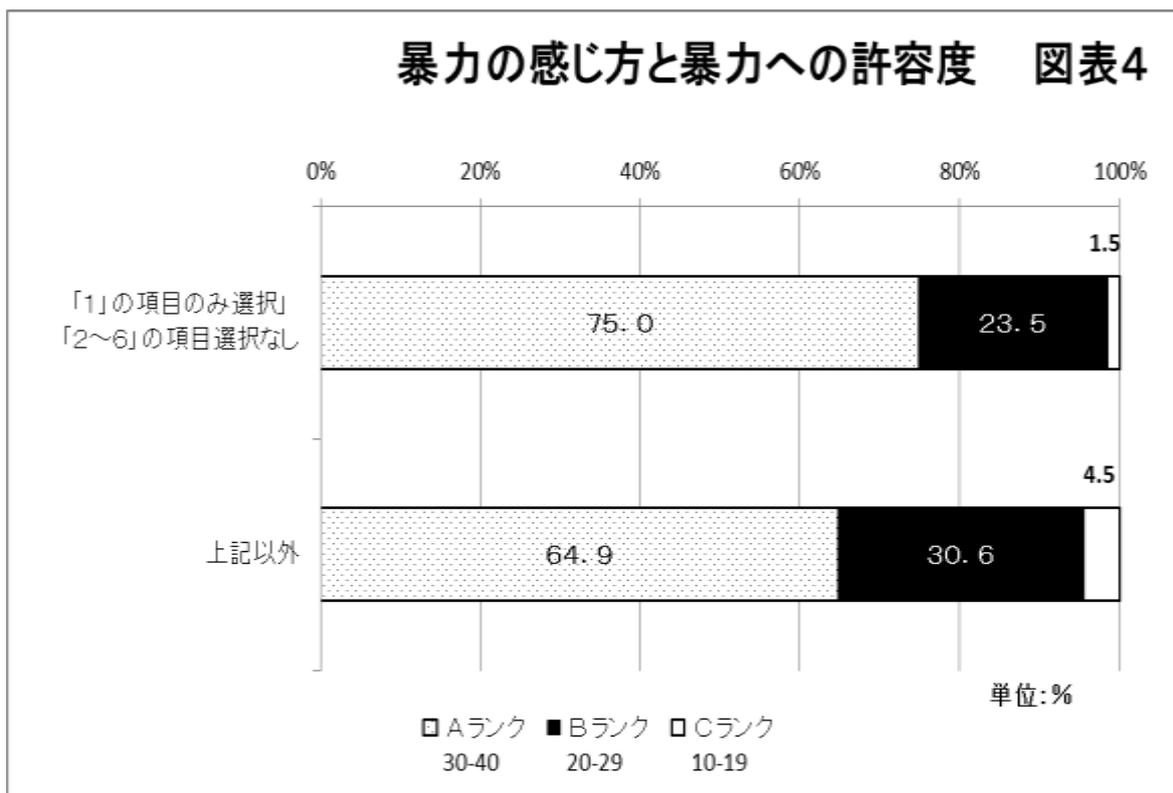
### グラフの横軸

〈暴力への感じ方A・B・C〉

問6の「暴力への感じ方」の10項目を点数化し、「暴力を感じる」を4点、「やや暴力を感じる」を3点、「あまり暴力と感じない」を2点、「暴力とは感じない」を1点として配点し、Aランクを30点～40点、Bランクを20点～29点、Cランクを10点～19点の3段階で比較した。点数が高いほど暴力への感じ方が高いといえる。

「1」の項目のみ選択「2～6」の項目の選択なし(N=564)

上記以外(N=725)



「1」の項目のみ選択して、「2～6」の項目を選択しなかった者(暴力への許容度が低い者)とそれ以外の者に関して、暴力への感じ方を見ると、暴力への許容度が低い者は、暴力への感じ方が高い(Aランク)の割合が高く、暴力への感じ方が低い者(Cランク)が著しく低いことが分かる。

### C-1 「暴力への感じ方」と「加害体験」との関係

図表5は問6「暴力への感じ方」と問9「加害体験」のクロス集計

グラフの縦軸

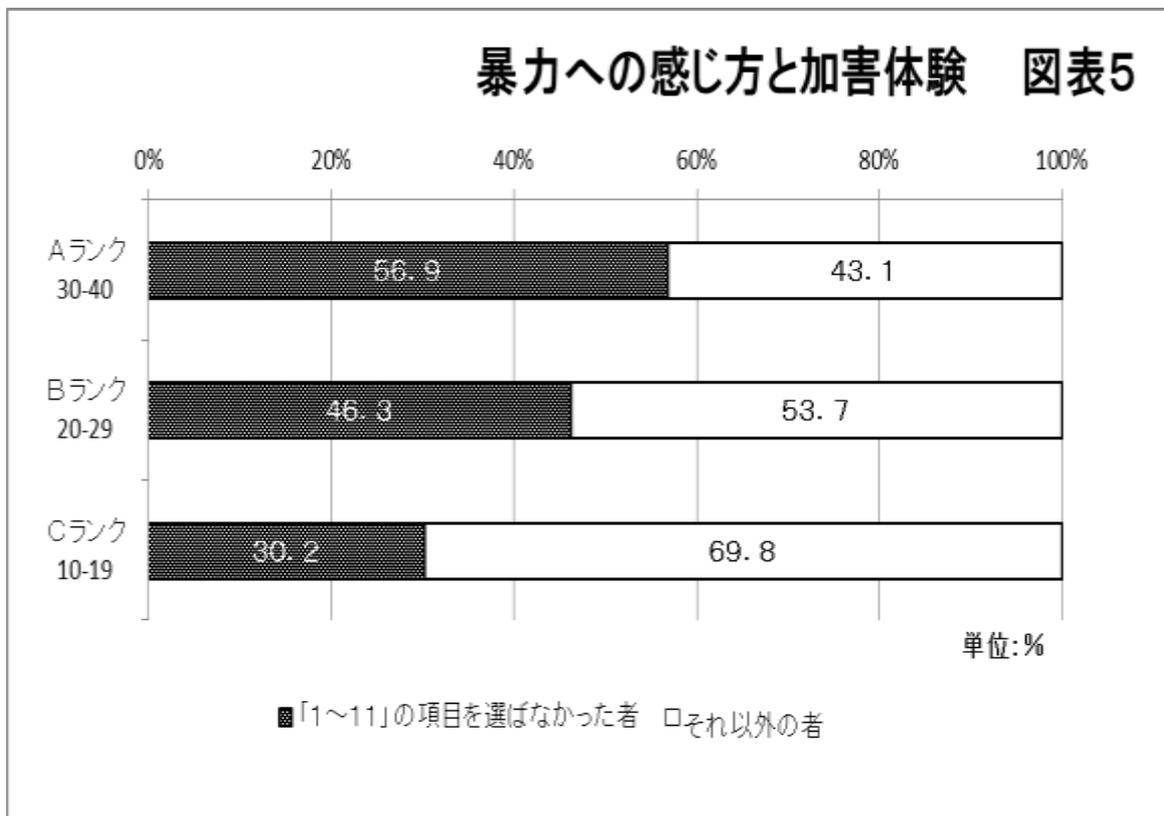
〈暴力への感じ方A・B・C〉

問6の「暴力への感じ方」の10項目を点数化し、「暴力と感じる」を4点、「やや暴力と感じる」を3点、「あまり暴力と感じない」を2点、「暴力とは感じない」を1点として配点し、Aランクを30点～40点、Bランクを20点～29点、Cランクを10点～19点の3段階で比較した。点数が高いほど暴力への感じ方が高いといえる。

グラフの横軸

問9の各項目の内、「1～11」の「したことがある」の項目を選ばなかった者とそれ以外の者

〈暴力への感じ方A・B・C〉 Aランク(N=891) Bランク(N=356) Cランク(N=42)



暴力への感じ方に関して、加害体験「1～11」の「したことがある」の項目を選ばなかった者(加害体験なし)とそれ以外の者の割合を見ると、暴力への感じ方が高い者(Aランク)は、加害体験「1～11」の項目を選ばなかった者(加害体験なし)の割合が高く、暴力への感じ方が低い者(Cランク)は、(加害体験なし)の割合が低いことが分かる。

## C-2 「暴力への感じ方」と「加害体験」との関係

図表6は問6「暴力への感じ方」と問9「加害体験」のクロス集計

グラフの縦軸

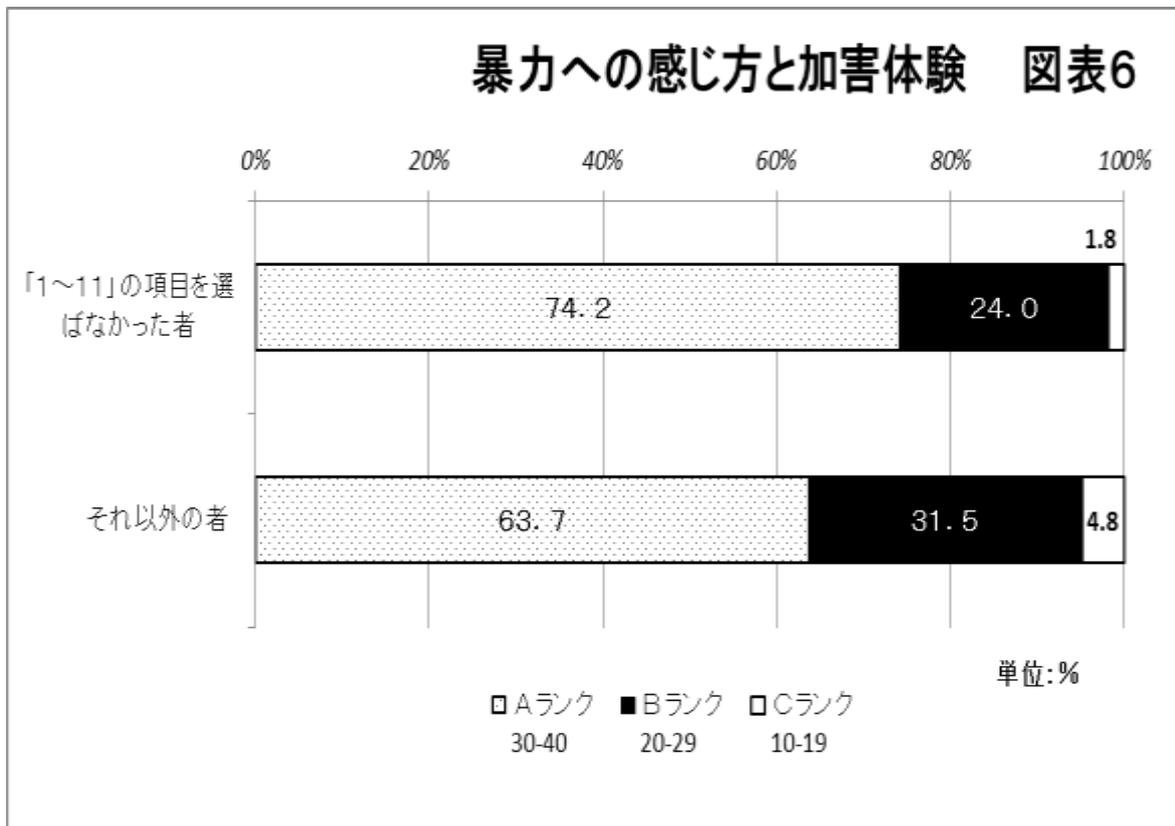
問9の各項目の内、「1～11」の「したことがある」の項目を選ばなかった者とそれ以外の者

グラフの横軸

〈暴力への感じ方A・B・C〉

問6の「暴力への感じ方」の10項目を点数化し、「暴力と感じる」を4点、「やや暴力と感じる」を3点、「あまり暴力と感じない」を2点、「暴力とは感じない」を1点として配点し、Aランクを30点～40点、Bランクを20点～29点、Cランクを10点～19点の3段階で比較した。点数が高いほど暴力への感じ方が高いといえる。

「1～11」の項目を選ばなかった者(N=686) それ以外の者(N=603)



加害体験「1～11」の「したことがある」の項目を選ばなかった者(加害体験なし)とそれ以外の者に関して、暴力への感じ方(Aランク～Cランク)の割合を見ると、加害体験「1～11」の「したことがある」の項目を選ばなかった者(加害体験なし)は暴力への感じ方が高い者(Aランク)の割合が高く、それ以外の者は暴力への感じ方が低い者(Cランク)の割合が高いことが分かる。

### (11)自由記述(デートDVについて)

今回のアンケート調査の問16で、「デートDV」について思うことなどを自由に記述してもらった。自由記述の回答者は353人(有効回答者数の26.9%)となっているが、全てを記載することはできないので、同じ内容の記述をまとめるなどして、多かった意見が以下のものである。

	件数
1 デートDVは絶対にあってはいけない、ダメなことだと思う	58
2 良くないこと、悪いことだ、ひどいことだ	37
3 デートDVという言葉聞いたことがなかったので、よく知らない	21
4 DVをする人は最低だと思う	20
5 デートDVの意味が分からない	17
6 暴力を振るわれるのは怖い	15
7 相談してほしい、相談機関が必要	10
8 難しいと思う	8
9 個人の価値観により違う	4
10 自己責任、個人の問題である	4

#### 上記に含まれない自由記述の抜粋

- ・日常的な暴力により、デートDVの感覚がマヒして、助けにくい状況になる。
- ・無理して付き合う理由が分からない。
- ・お互いに好きな相手を独占したくなると拘束が生まれることは当然だが、傷つけるのは良くない。
- ・「人には人権があるのだから我慢しないで」と言いたい。
- ・DVをされている側の方は、人にも言えず一人で悩んでいる、理解してもらえない。
- ・女の方もDVか束縛かの判断が出来なくなっている。デートDVへの理解が必要。
- ・気に入らなければ別れば良いし、深刻な問題なら警察に駆け込むべき。
- ・アンケートに答えていくなかで、自分が相手にDVをしているかもしれないと思った。
- ・DVは、相手の感じ方によって些細なことでもDVになることを実感しています。
- ・自分のしたことでもデートDVに含まれることを知り驚いた。
- ・周りの人が気づき、助けることが必要。
- ・どこまでがDVの範囲か分からない。

### Ⅲ まとめ

こうち男女共同参画センター「ソーレ」では、「若い世代対象 男女共同参画とデートDVに関する意識調査」を実施しました。

#### 〈男女共同参画について〉

男女共同参画に関する意識調査においては、家庭生活、職場生活、社会通念・慣習・しきたり、社会全体の分野では、『男性優遇』（「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」、以下『男性優遇』）と答えた人の割合は、女性が男性を大きく上回り、男女間では平等意識に大きな隔たりが見られます。

学校教育の分野では、男女とも「平等」と答えた人の割合が70%以上もあり、他の4つの分野と傾向が違うことが分かります。

#### 〈デートDV(恋人間の暴力)について〉

これまで配偶者や恋人などパートナーからの暴力は「プライベートな問題」「仕方がない」ということで見過ごされることが多かったですが、2001年に「配偶者からの**暴力の防止**及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」が施行され、日常的にもDVという言葉が聞かれるようになり、DVは「犯罪にもつながる重大な人権侵害」であると、社会的に認識されてきました。

同様に、10代から20代の若い世代のカップル間で起きているデートDVが問題になっており、将来夫婦間のDVに繋がっていく可能性も危惧され、デートDVを防止する対策が急がれています。

こうち男女共同参画センター「ソーレ」が平成22年度に集計した県下の高校生(8校)1,776名への「デートDVに関するアンケート調査」の結果でも、交際経験のある高校生の約20%が「DVの被害を受けたことがある」と答えていました。

今回の「デートDVに関する意識調査」からは、交際経験のある男女の被害体験の内、「自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」「バカとかクズなどと、傷つくよび方をする」「携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」が多くを占めることなどから、デートDVの特徴と言われる「携帯電話を使つての束縛」「言葉による暴力」などが高知の若い世代間でも起きていることが分かります。

自由記述の中には、「デートDVは絶対にあってはいけない、ダメなことだと思う」「良くないこと、悪いこと」などのデートDVを否定する意見が多くを占めています。

その一方で、「デートDVという言葉聞いたことがなかったので、よく知らない」、「デートDVの意味が分からない」などの記述や、「個人の価値観により違う」「自己責任、個人の問題である」という少数意見もあり、一部の学生にはデートDVのことが十分に理解されていないことも分かります。

これからの若い世代の人たちをDVの被害者や加害者にしないためにも、小学校や中学校の段階からデートDVやジェンダー、人権について学習することが重要であると考えます。

最後に、今回の調査にご協力頂いた大学・高等専門学校・専門学校等の学生及び教職員の方々、調査方法についてご協力頂いた名古屋市男女平等参画推進センター、「若い世代対象男女共同参画とデートDVに関する意識調査」の検討委員会の皆様に感謝申し上げます。

## IV アンケート調査票

平成22年度 男女共同参画に関する意識調査 (実施団体:(財)こうち男女共同参画社会づくり財団)

● 問いに対してあてはまるものを選び、○印をつけてください。

★あなた自身についておたずねします。

ア. あなたの性別は	1. 男性		2. 女性		
イ. あなたの年齢は (平成22年10月1日現在)	( )歳				
ウ. 学校は	1. 大学		2. 短大		3. 専門学校
エ. 学年は	1. 1年生	2. 2年生	3. 3年生	4. 4年生	5. 5・6年生、大学院生

ア	1
イ	2
ウ	3
エ	4

★ここからは男女共同参画についての質問です。あなたのお考えを率直にお聞かせください。

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近い番号に1つだけ○印をつけてください。

	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない
ア. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
イ. 職場生活	1	2	3	4	5	6
ウ. 学校教育	1	2	3	4	5	6
エ. 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
オ. 社会全体	1	2	3	4	5	6

1-ア	5
1-イ	6
1-ウ	7
1-エ	8
1-オ	9

問2 結婚、家庭、離婚について、あなたの意見に最も近い番号に1つだけ○印をつけてください。

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
イ. 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい。	1	2	3	4	5
ウ. 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
エ. 結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい。	1	2	3	4	5
オ. 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である。	1	2	3	4	5

2-ア	10
2-イ	11
2-ウ	12
2-エ	13
2-オ	14

問3 家庭における男女の役割分担について、あなたの理想に最も近いのはどれですか。(1つだけ○印)

- 夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する
- 妻が家計を支え、夫が家事・育児に専念する
- 夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する
- 夫と妻が共同で家計を支え、主に夫が家事・育児を分担する
- 夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する
- 夫と妻の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う
- その他(具体的に )

3	15
---	----

問4 女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の望ましい働き方と思うものはどれですか。(1つだけ○印)

- 結婚や出産に関わらず、仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 学校卒業後は仕事をせず、結婚後または子育て終了後から仕事をする
- 出産するまでは仕事をし、子どもができたなら家事や育児に専念する
- 結婚するまでは仕事をし、結婚後は家事に専念する
- 仕事をしない
- その他(具体的に )

4	16
---	----

問5 男女が共に働きやすい環境をつくるために、あなたは何が必要だと思いますか。(いくつでも)

- 男女とも労働時間の短縮や休日の増加を促進する
- 男女を対象とする仕事と子育て・介護の両立を支援する体制を整備する
- パートタイムの就労条件・賃金を改善する
- 職業生活を続けていく上での相談窓口を充実する
- 農業や自営業の分野で、家族の間で収益の分配や休日などについてのルールづくりを進める
- 女性の能力や実績が正当に評価されるような体制を整備する
- 職場での待遇や役割分担を男女平等にする
- 経営方針や仕事の企画に、必ず女性の意見を取り入れる
- その他(具体的に )

5	17
	18
	19
	20
	21
	22
	23
	24
	25

★ここからはデートDV(恋人間の暴力)についての質問です。

近年若い人たちの間で、デートDVによる被害が起きているといわれています。あなたの考え方や日頃の行動についてお答えください。  
(なお、答えにくい設問については、答えなくても結構ですので、気軽にお答えください。)  
※デートDVとは付き合っている相手からの暴力のことです。

問6 次のそれぞれの行動について、あなたの感じ方に合うものに、1つずつ○印をつけてください。

	暴力と感じる	やや暴力と感じる	あまり暴力とは感じない	暴力とは感じない
1. 殴ったり、けったりすること	1	2	3	4
2. 大声でどなること	1	2	3	4
3. バカにしたよび方をする	1	2	3	4
4. 何を言っても無視すること	1	2	3	4
5. 人と会うことや外出などの行動を制限すること	1	2	3	4
6. 借りたお金を返さないこと	1	2	3	4
7. いう通りにしないとただではすまないとおどすこと	1	2	3	4
8. メールや着信をチェックすること	1	2	3	4
9. 無理やり性的な行為をすること	1	2	3	4
10. 避妊しないこと	1	2	3	4

6-1		26
6-2		27
6-3		28
6-4		29
6-5		30
6-6		31
6-7		32
6-8		33
6-9		34
6-10		35

問7 暴力について、あなたの考え方に合うものに○印をつけてください。(いくつでも)

- 殴ったりけったりすることは何があっても、許されない
- 軽く叩く程度なら、特に問題ない
- おだやかに説明してもわからなければ、どなってもかまわない
- 愛情があれば、暴力をふるってもかまわない
- 暴力をふるわれるのは、ふるわれる方にも原因があるからだ
- 暴力をふるっても、謝れば許すべきだ

7		36
		37
		38
		39
		40
		41
8		42

問8 あなたは特定の人と付き合った経験がありますか。

1. ある 問9へ      2. ない 問12へ

問9 あなたの付き合った経験の中でできごとについてお聞きます。  
次のような行動をしたり、されたりしたことがありますか。あてはまるものに○印をつけてください。

	したことがある	されたことがある
1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする	1	2
2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる	1	2
3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする	1	2
4. 勝手に携帯電話の番号やアドレスを消す	1	2
5. 携帯メールで常に行動を報告したり、返信するよう要求する	1	2
6. 相手の意見を聞かずに、自分勝手に物事を決める	1	2
7. 思い通りにしないと、どなったり責めたりおどしたりする	1	2
8. 殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする	1	2
9. 怪我になるほど、殴ったりけったりする	1	2
10. 無理やり性的な行動をする	1	2
11. 避妊をしない	1	2

9-1		43
9-2		44
9-3		45
9-4		46
9-5		47
9-6		48
9-7		49
9-8		50
9-9		51
9-10		52
9-11		53

問10 問9で「したことがある」に1つでも該当する人にお聞きます。

(1) そのようなことをした理由として、あてはまるものに○印をつけてください。(いくつでも)

- 自分のいうことを聞かなかったから
- やられたのでやり返した
- 責められたりバカにされたから
- いらいらしていたから
- 好きだからと当然と思った
- 相手が去っていくのではと不安になったから
- 自分でも理由がわからない
- その他( )

10-(1)

	54
	55
	56
	57
	58
	59
	60
	61

(2) 初めてしたのはいつ頃でしたか。学校、学年を選んでください。

- a.学校 1. 小学校 2. 中学校 3. 高校 4. 大学・専門学校 5.その他( )  
b.学年 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

10-(2)

	62
	63

問11 問9で「されたことがある」に1つでも該当する人にお聞きします。

(1) そのときの気持ちについて、あてはまるものに○印をつけてください。(いくつでも)

1. 怖かった
2. 自分が情けなくみじめに感じた
3. 好きだからこそ、されたと感じた
4. 自分が悪いから仕方ないと感じた
5. 何でされたか分からなかった
6. 腹が立った
7. その他( )

11-(1)

64
65
66
67
68
69
70

(2) 初めてされたのはいつ頃でしたか。学校、学年を選んでください。

- a.学校 1. 小学校 2. 中学校 3. 高校 4. 大学・専門学校 5. その他( )
- b.学年 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

11-(2)

71
72

(3) その後、その相手との関係はどうなりましたか。あてはまるものを1つ選んで○印をつけてください。

1. 別れたいと思わず、付き合い続けた
2. 別れたいと思ったが、別れることができなかった
3. 一度は別れたが、再び付き合うようになった
4. 結婚した
5. 別れた

11-(3)

73
----

(4) 前問(3)で1～4を選んだ方にお聞きします。別れなかった理由と思うものに○印をつけてください。(いくつでも)

1. 好きだから
2. 大したことではないと思うから
3. たった1回ダメなことだったから
4. 嫌なところもあるけれど、いいところもあるから
5. この人と別れたら、付き合う相手が見つからないと思うから
6. 別れるというと、もっとひどいことになりそうだから
7. 問9のような行動がなくなったから
8. その他( )

11-(4)

74
75
76
77
78
79
80
81

(5) 誰か(どこか)に相談しましたか。あてはまるものに○印をつけてください。

1. 相談した → 相談した相手を選び (6)へ  
 →1. 親 2. きょうだい 3. 友人 4. 先輩 5. 親類 6. スクールカウンセラー 7. 先生  
 8. 相談電話 9. インターネット 10. 警察 11. その他( )
2. 相談したかったが、できなかった }  
 3. 相談したいと思わなかった } → (7)へ

11-(5)

82
----

(5)-1

83
84
85
86

(6) 相談した人は、相談してみてどうなりましたか。あてはまるものに○印をつけてください。(いくつでも)

1. 別れようと思った
2. 気持ちが楽になった
3. 嫌なことを嫌だといえるようになった
4. 理解してもらえず、余計に落ち込んだ
5. 自分が我慢するしかないと思った
6. その他( )

11-(6)

87
88
89
90
91
92

(7) 相談しなかった(できなかった)人は、その理由としてあてはまるものを選んでください。(複数可)

1. 恥ずかしいから
2. 大したことではないと思ったから
3. 一時的なことだと思ったから
4. 相手が謝罪したから
5. 相手が怖かったから
6. 自分で解決しようと思ったから
7. 相談してもどうにもならないと思ったから
8. 誰に相談してよいのかわからなかったから
9. その他( )

11-(7)

93
94
95
96
97
98
99
100
101

問12 次のような行動を、友人がしたりされたりしているのを、見聞きしたことがありますか。あてはまるものに○印をつけてください。

	しているの見聞きしたことがある	されているの見聞きしたことがある	どちらも見聞きしたことがない
1. バカとかグズなどと、傷つくよび方をする。	1	2	3
2. 自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる	1	2	3
3. 携帯電話の着信履歴やメールをチェックする	1	2	3
4. 勝手に携帯電話の番号やアドレスを消す	1	2	3
5. 携帯メールで常に行動を報告したり、返信するよう要求する	1	2	3
6. 相手の意見を聞かずに、自分勝手に物事を決める	1	2	3
7. 思い通りにならないと、どなったり責めたりおどしたりする	1	2	3
8. 殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする	1	2	3
9. 怪我になるほど、殴ったりけったりする	1	2	3
10. 無理やり性的な行動をする	1	2	3
11. 避妊をしない	1	2	3

12-

1		102
2		103
3		104
4		105
5		106
6		107
7		108
8		109
9		110
10		111
11		112

問13 問12に1つでも該当する人は、それに対してどうしましたか。(いくつでも)

1. 何かしようとは思わなかった
2. 何かしたかったけど、(どうしたらいいかわからず)何もできなかった
3. 何かしようとして、(相談にのるなど)手助けした
4. その他( )

13

	113
	114
	115
	116

問14 これまで「デートDV」について学んだことがありますか。あてはまるものを選んでください。

1. ある
2. ない

「ある」を選んだ方に伺います。

(1) 初めて学んだのはいつ頃でしたか。学校、学年を選んでください。

a. 学校 1. 小学校 2. 中学校 3. 高校 4. 大学・専門学校 5. その他( )

b. 学年 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

(2) どこで学びましたか

1. 学校 2. 公共施設(男女共同参画センターなど) 3. その他( )

14

	117
--	-----

	118
	119

	120
--	-----

問15 あなたは、デートDVなどについて相談できる機関(こうち男女共同参画センター「ソール」)があることを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

15

	121
--	-----

問16 「デートDV」について思うことなど、自由に書いてください。

☆ご協力ありがとうございました☆